

海の道むなかた館長

第6回 末盧国

西谷 正

I はじめに

倭人伝に見える末盧国



II 末盧国の形成

- (1) 稲作の始まり
- (2) 末盧国の成立—弥生時代中期後半？
- (3) 末盧国の王墓—桜馬場遺跡

III 末盧国の遺跡

- (1) 国邑—拠点集落—千々賀遺跡
- (2) 王墓—中原遺跡
- (3) 高地性集落—上場台地（雨溜遺跡・赤太郎茶屋遺跡・湊中野遺跡）

IV 末盧国の生活

- (1) 農業—「濱山海居」の原風景
- (2) 漁労—「好捕魚鰓水無深淺皆沈没取之」の世界

V 末盧国以後

前方後円墳の出現と松浦県主—久里双水古墳

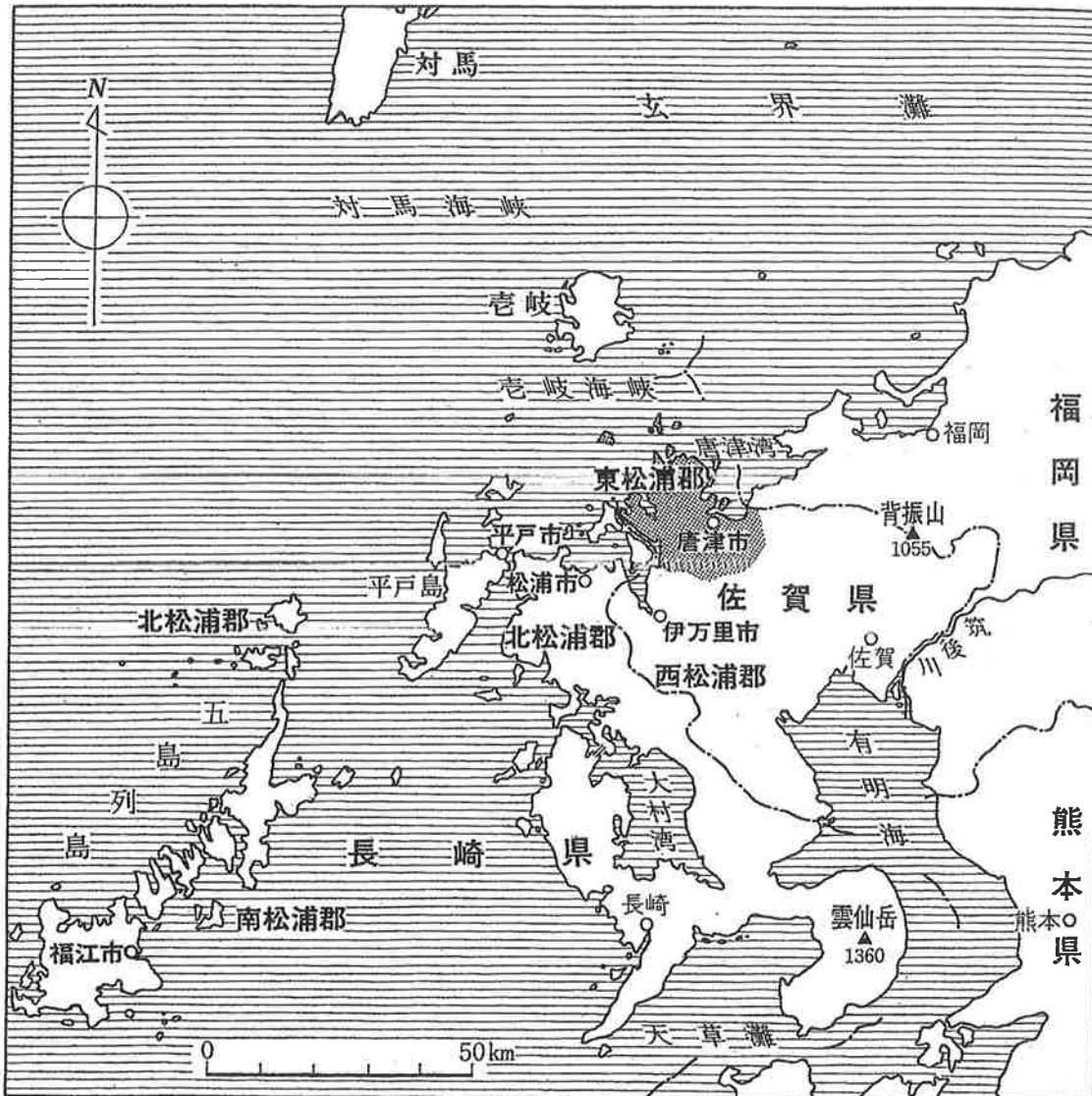
VI おわりに

末盧国と伊都国

又、一海を渡ること千余里。末盧国に至る。四千余戸あり。山海に濱いて居す。草木茂盛し、行くに前人をみず。好んで魚鱓を捕え、水深浅となく、皆沈没してこれを取る。

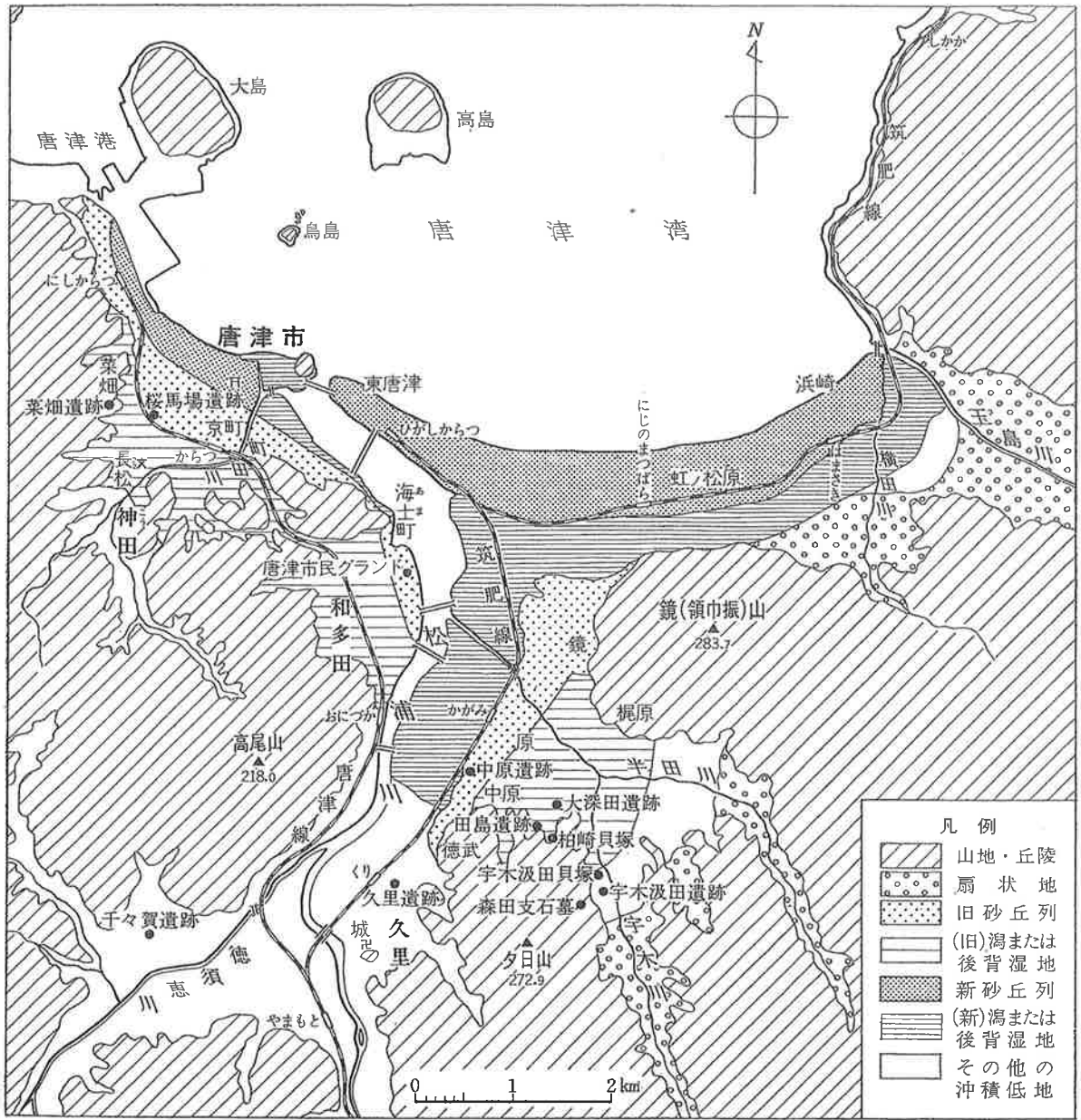
渡一海千餘里至末盧國 又
 有四千餘戸濱山海居草
 木茂盛行不見前人好捕
 魚鱓水無深淺皆沈沒取
 之

末盧國



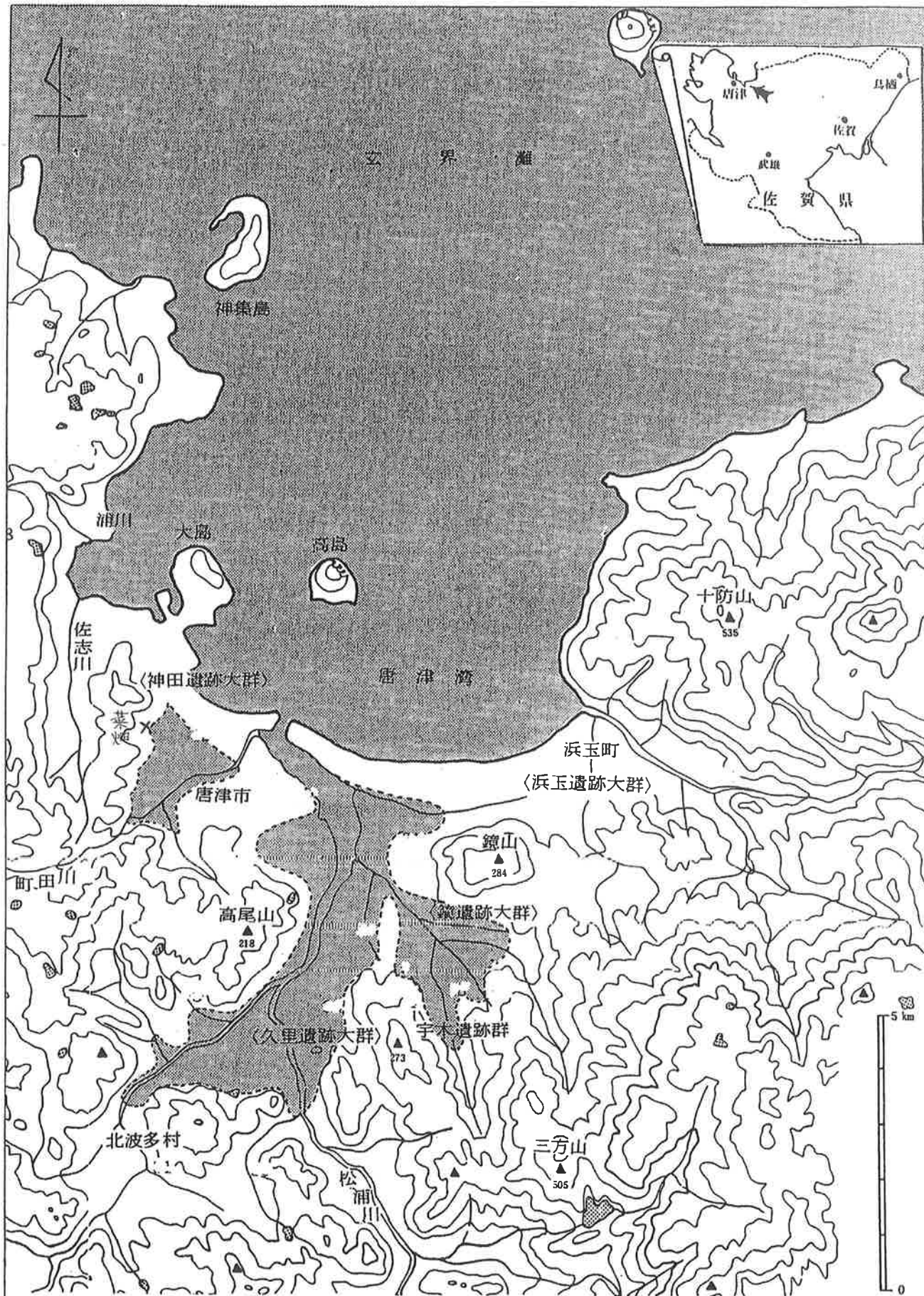
松浦郡の範囲

唐津湾周辺遺跡調査委員会編, 1982『末盧国—佐賀県唐津市・東松浦郡の考古学的調査研究—』大塚出版



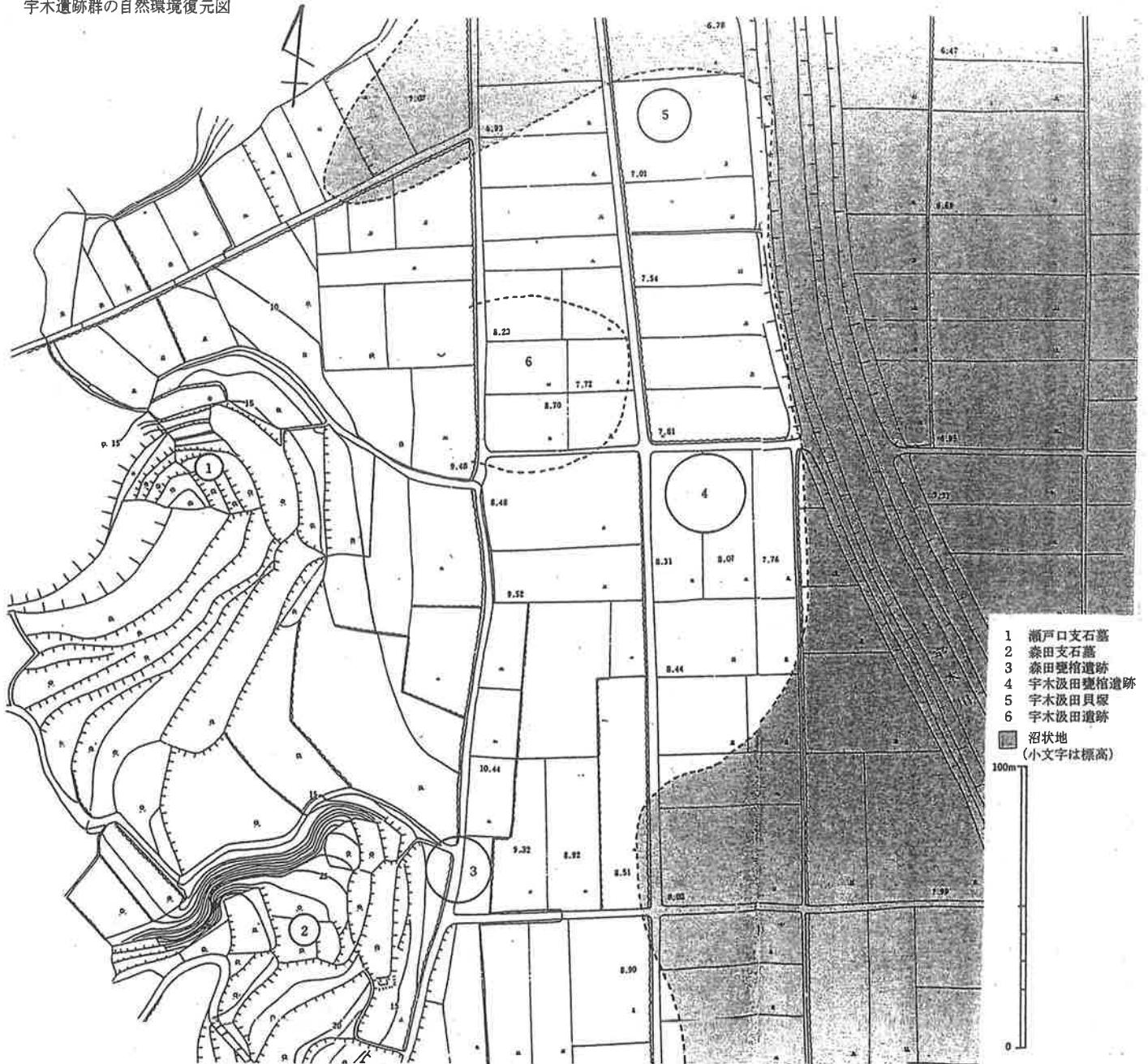
唐津平野の地形分類図





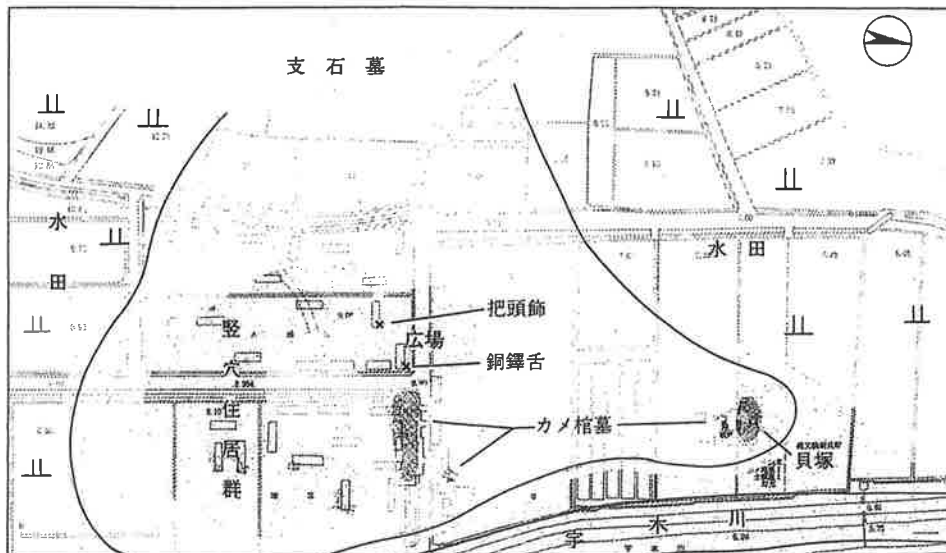
唐津域における弥生期の自然環境復元図 網の部分は復元沼状地

木下 巧, 1993「弥生期の自然環境序説—佐賀県唐津地方の場合—」『古文化叢書』第30集(下)

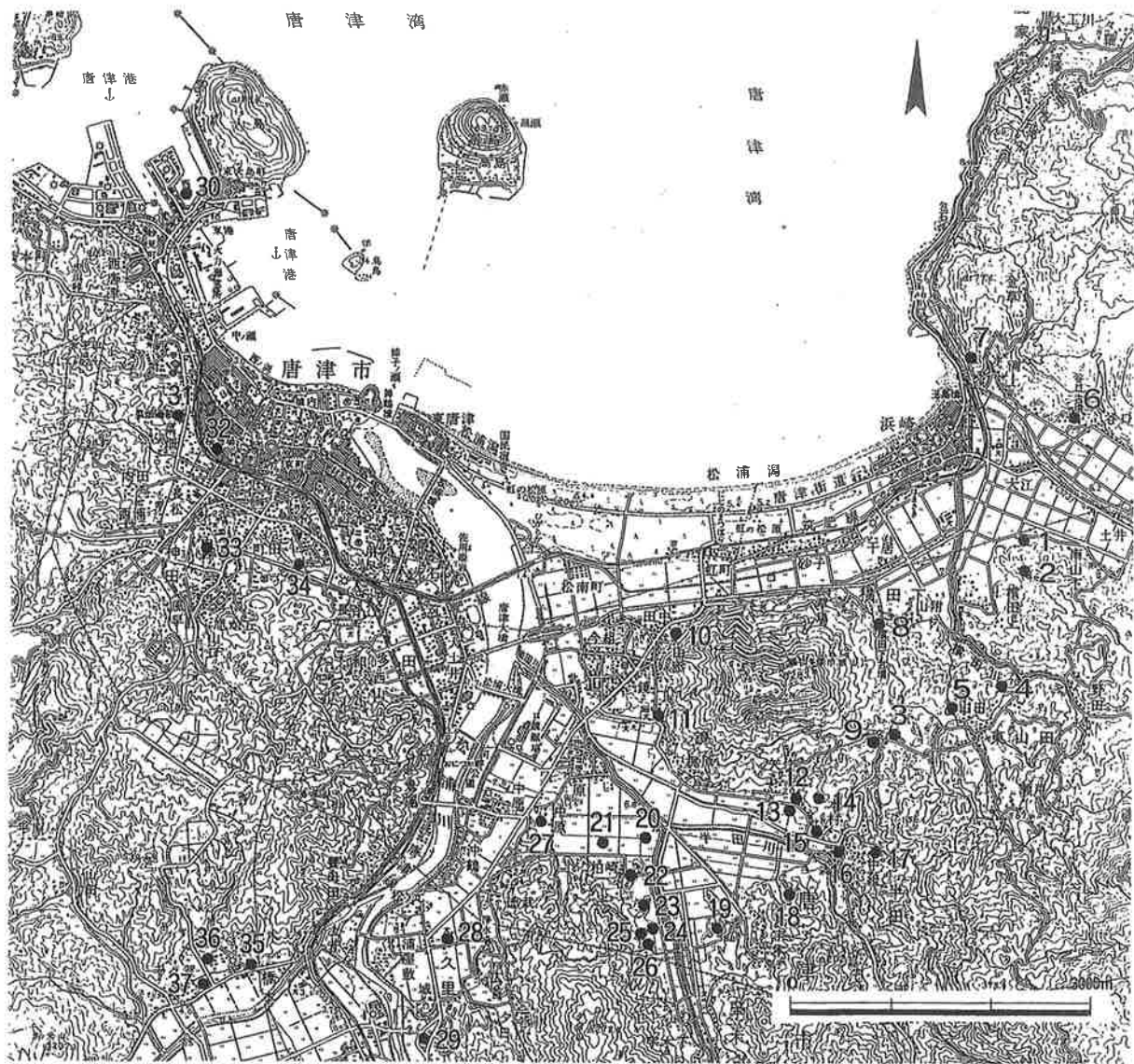


木下 巧, 1993 「弥生期の自然環境序説—佐賀県唐津地方の場合—」『古文化叢書』第30集(下)

宇木汲田遺跡遺構配置図

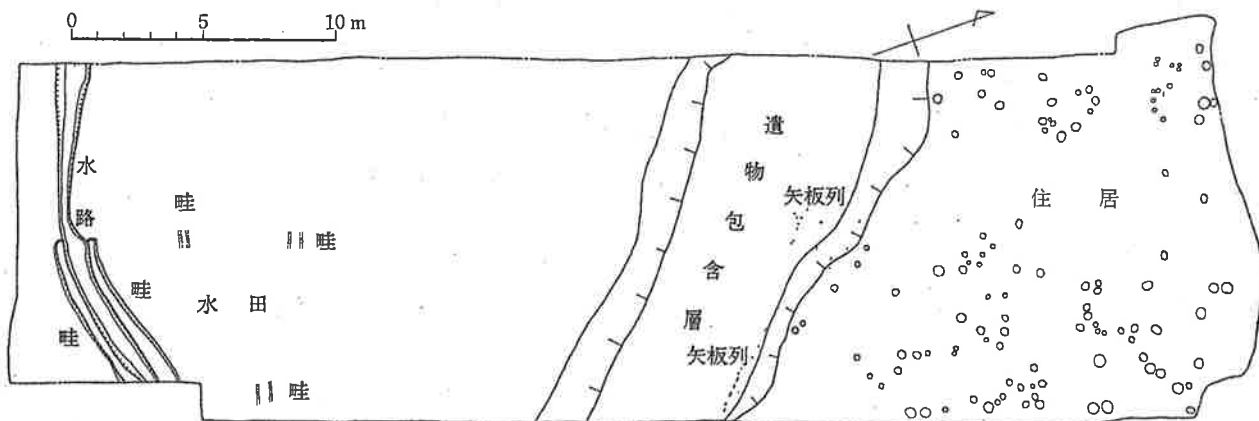


唐津市木盛館, 1991 『木盛館開館一周年記念特別展「弥生の秘密」里帰り展』宇木汲田遺跡出土品



周辺遺跡分布図 (1/70000)

| | | | |
|-------------|-----------|--------------|-------------|
| 1 大江前遺跡 | 11 樋ノ口古墳 | 21 柏崎大深田遺跡 | 31 菜畑遺跡 |
| 2 日貫古墳群 | 12 堂の前遺跡 | 22 柏崎遺跡 | 32 桜馬場遺跡 |
| 3 赤野遺跡 | 13 井ヶタ遺跡 | 23 長崎山古墳群 | 33 神田中村遺跡 |
| 4 袈裟丸城跡 | 14 鶏ノ尾遺跡 | 24 宇木汲田遺跡 | 34 コクダシ遺跡 |
| 5 岩根遺跡 | 15 半田新田遺跡 | 25 瀬戸口支石墓 | 35 千々賀字ノ木遺跡 |
| 6 谷口古墳 | 16 天神ノ元遺跡 | 26 森田支石墓 | 36 千々賀古園遺跡 |
| 7 経塚山古墳 | 17 宮の上古墳 | 27 中原遺跡 | 37 千々賀庚申山遺跡 |
| 8 横田下古墳 | 18 葉山尻支石墓 | 28 久里大牟田遺跡 | |
| 9 外原遺跡 | 19 迫頭古墳群 | 29 久里双水前方後円墳 | |
| 10 島田塚前方後円墳 | 20 梅白遺跡 | 30 西唐津海底遺跡 | |



菜畑遺跡の晩期後半の遺構配置図

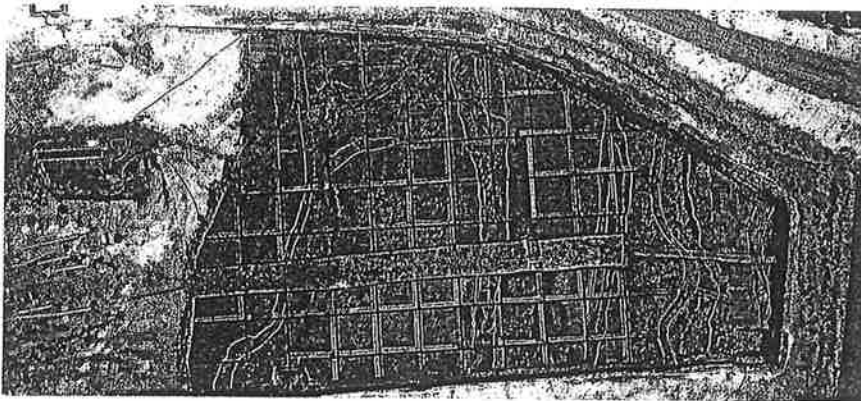
古代の米づくり

佐賀県は、弥生時代の先進地として、国内最古の水田遺跡である唐津市菜畑遺跡^{なばたけ}などがあるものの、意外にも具体的な“米づくり”に関しては調査例がなく、不明な点が多くありました。しかし西九州自動車道関係の発掘調査において梅白遺跡^{うめしろ}や大江前遺跡^{おほえさき}、中原遺跡^{なかばら}の調査が行なわれたことにより、弥生時代から古墳時代の米づくりについて多くのことが分かるようになりました。

今回は、これらの“米づくり”に関する資料を紹介します。

米づくりの始まり

梅白遺跡と大江前遺跡では弥生時代の水田に伴うと考えられる水路が調査されています。水路からは弥生時代の始まり～中頃にかけての多くの木製農具が見つかりました。大きさや形も様々で、いろいろな使い分けがなされていたようです。また、梅白遺跡では弥生時代中期の大規模な水田も発見され、当時の水田技術を具体的に知ることができます。



梅白遺跡の弥生時代前～中期水田跡 (2300～2100年前)



中原遺跡の木桶を埋め込んだ堤防状施設。
弥生中期の土木技術を示す遺構 (2100年前)

■弥生時代の木製農具

最初の米づくりはおよそ2500～2300年前に朝鮮半島から伝わってきました。米づくりの道具の主体は木製農具です。諸手鋤やエブリなど最初から今日とほとんど変わらない種類がありました。また、2100年前の弥生中期になると、朝鮮半島から新式の鋤や鋤などが渡来しますが、特に梅白遺跡では大型の厚くて頑丈な特徴のある又鋤が出土しており、土木用にも活躍したと考えられます。



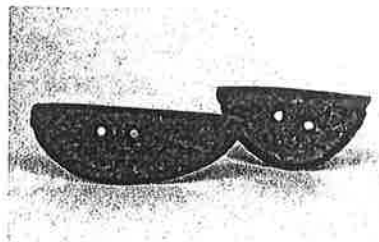
最古の農具 梅白遺跡
縄文晩期終末 (2500年前)



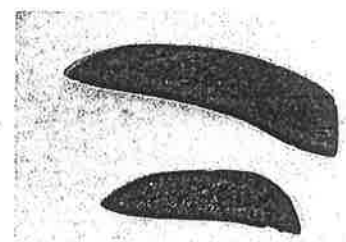
弥生中期の新しい農具
梅白遺跡 (2200年前)

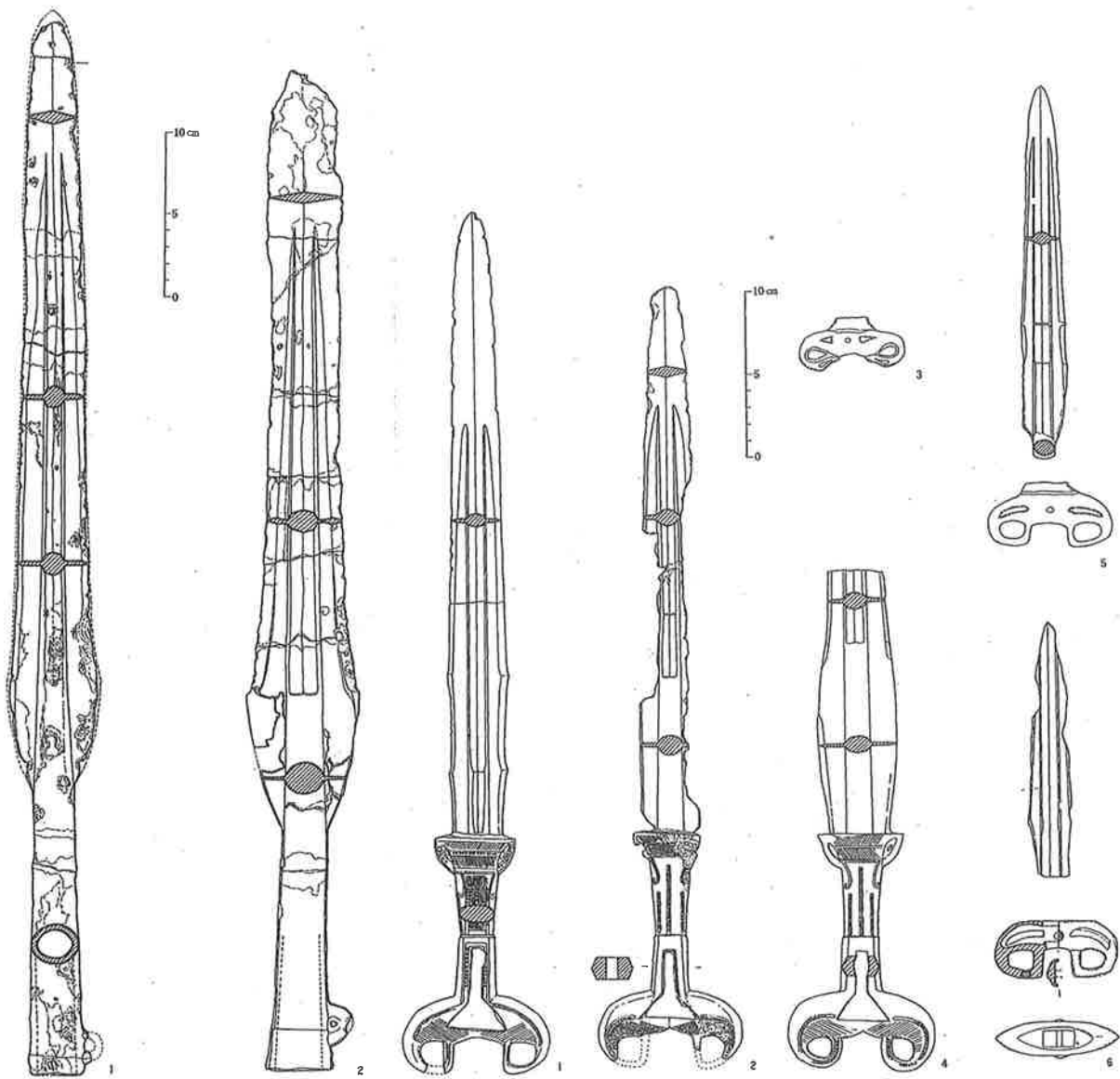
■収穫具

収穫具には穂先だけを摘み取る“石庵丁^{いしちやう}”と根から刈り取る“石鎌^{いしがま}”があります。



石包丁 中原遺跡 弥生中期 (2200年前) 石鎌 中原遺跡 弥生中期 (2200年前)

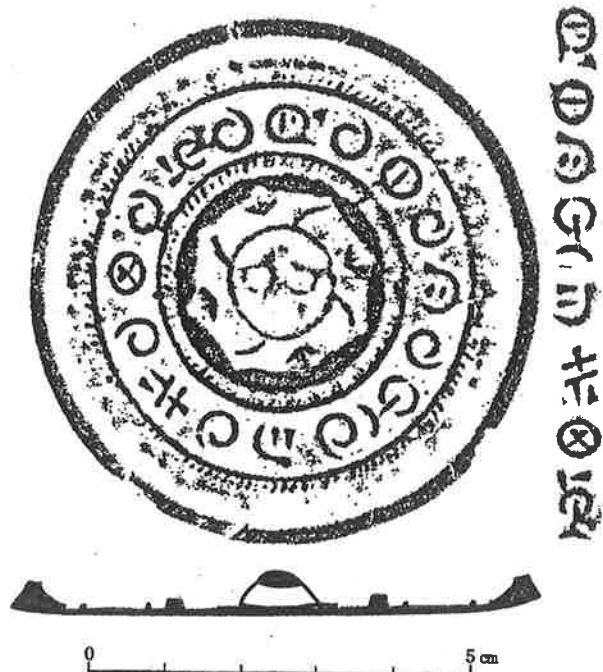




柏崎・石蔵出土銅矛

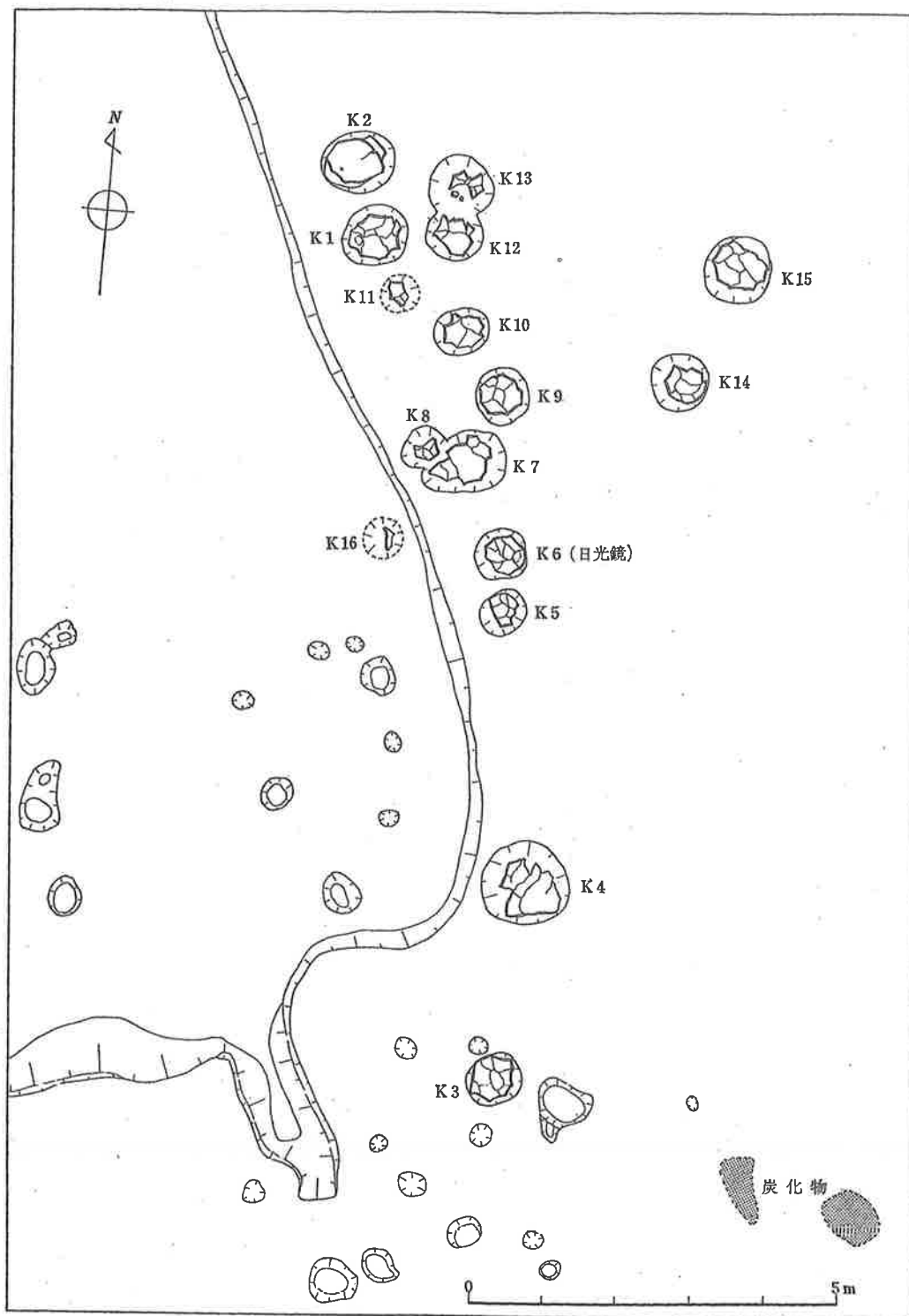
触角式有柄銅劍 1.大英博物館蔵品 2.唐津市柏崎出土 3.朝鮮平壤近郊 4.慶応大学蔵品
5.長崎県対馬タカマツダン 6.長崎県対馬サカドウ

銅鏡 K 6に副葬されていた銅鏡は、前漢の中期およびやや後に作られた舶載鏡の日光鏡である。鏡背面の内区の主区に銘帯をもち、連弧文帯をもつ直径6.9 cmの小形鏡である。銘文八字がはいり、その字間に渦文の間置文を交互に入れている。中国歴史博物館の史樹青先生より「見日月之明光、田貞(卓)」と読み、田貞(卓)は造鏡人の姓名である」と。

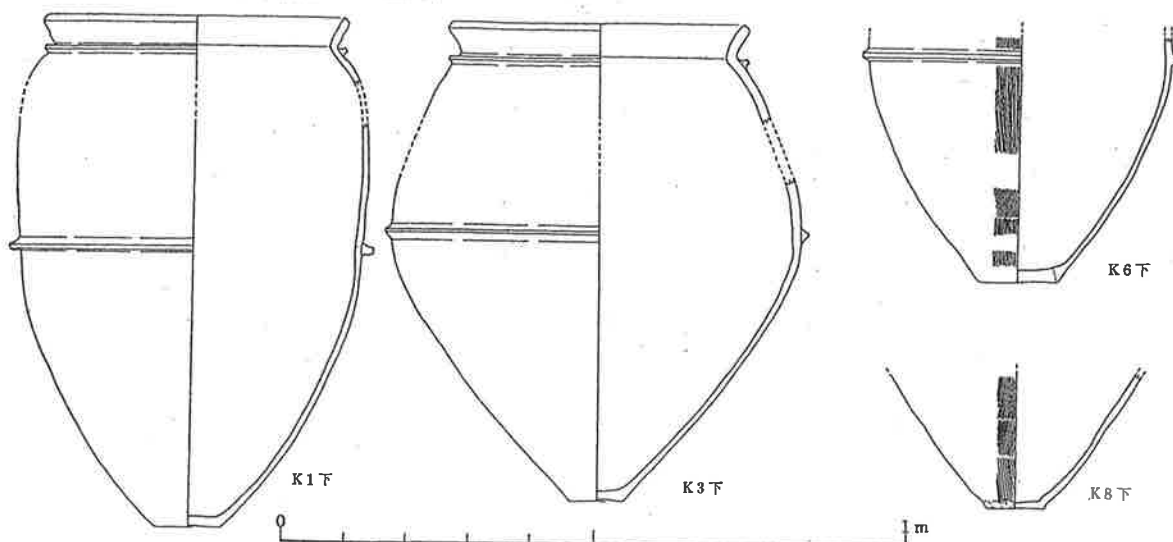


田島遺跡出土の日光鏡・銘文拓本

唐津湾周辺遺跡調査委員会編
1982『末盧国—佐賀県唐津市・東松浦郡の考古学的調査研究—』六興出版



田島遺跡甕棺墓遺構配置図



田島遺跡出土甕棺実測図

唐津市の平野町より山下町にかけて、弥生時代の甕棺があらわれ、平野町のは銅矛が出土したことを伝えている。桜馬場はその中間にあって、唐津市街の北の砂丘地帯の西南にあたる。

1944年(昭和19)11月14日、たまたま防空壕の工事中、地下1mのところ、合口の甕棺が見つかり、その中から鏡などの遺物を発見、工事を行った山口毅氏がこれを秘蔵した。そのことを正円寺の龍溪顕亮氏が伝え聞かれて、発掘当時の覚書をつくっておかれた。

1946年3月、唐津をおとずれた岡崎は、龍溪氏の好意で出土遺物を調査し、その年の8月も遺物と遺跡の調査を許された。これを梅原末治教授に報告した。遺物は1948年、奈良で行われた日本考古展に出陳され、梅原博士はその時の遺物の観察の成果を加え、1950年に報告された。

遺物はその後、土地所有者西岡広志氏の下に帰し、その後、佐賀県立博物館開設の際に、博物館の所蔵になった。西岡氏の語るころでは、合口の甕棺の他に、時を異にして石蓋の甕棺が見出されて、1946年頃には石蓋が残っていた。

1944年に鏡などの遺物を出した甕棺は、西岡氏の畑の南側で、すぐに道路に

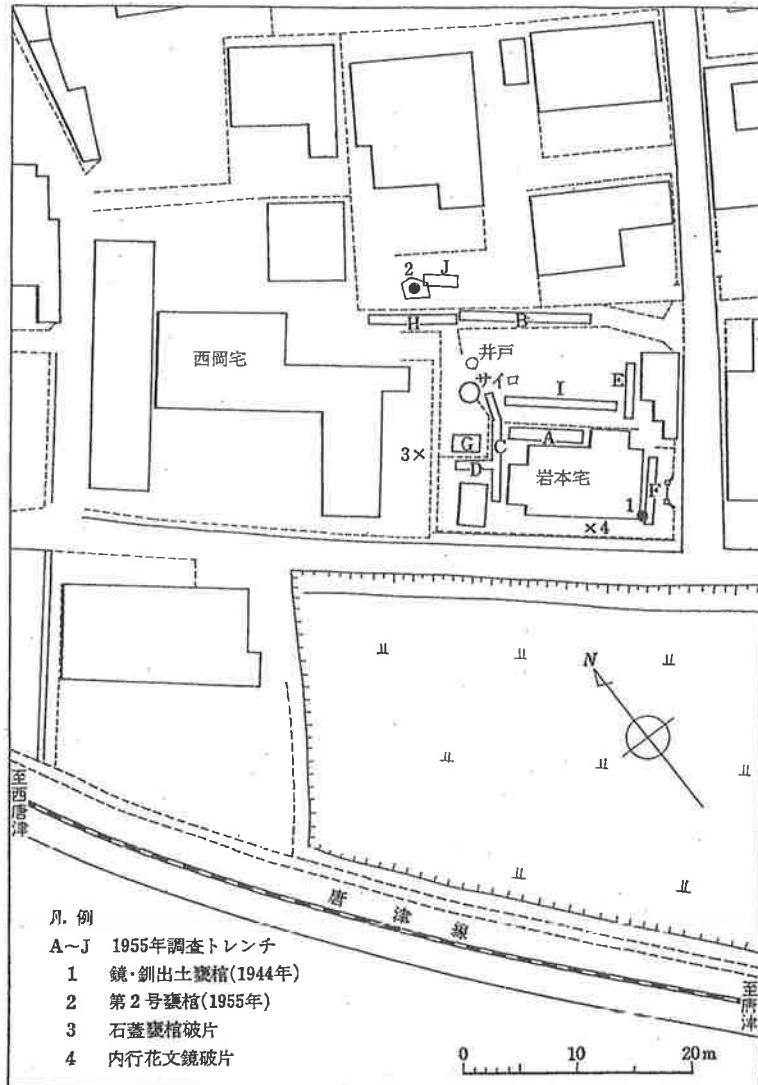
接し、崖より10尺もへだたらない地点にあった。

龍溪氏の記録された山口氏の覚書によると、地表下3尺にして、合せ甕につきあたり、上の甕は破碎していたが、下の甕はよく残っていて、高さ4尺2寸、内より2尺3寸をはかった。口縁部はL字形をなし、胴部には2条の凸帯を有していた。下の甕は口縁部を西に向けており、ほぼ東西であったと思われる。1946年、岡崎の実査した頃、甕棺の破片をひろうことができたが、大部分は一括して畑に埋め戻したという。人骨片は龍溪氏の記憶ではあったようである。

1955年8月、杉原荘介氏は、桜馬場遺跡の発掘計画をたてた。東亜考古学会からは原口正三氏が同行した。調査は同年8月23~29日に行われた。A-J区のトレンチを掘り、甕棺の分布の端を確かめるために、東北に向い、1, 2, 3, 4のトレンチを設けた。

Cトレンチでは復原可能な1号甕棺が発見され、Jトレンチの西端に原形のままの2号合口甕棺(下甕に管玉1個出土)が出土した。

甕棺は西岡邸をはなれるとほとんどなく、同氏の屋敷が甕棺分布の中心部である。4トレンチでは古墳時代中期の竪穴が発見され、多くの土師器が採集されたのである。



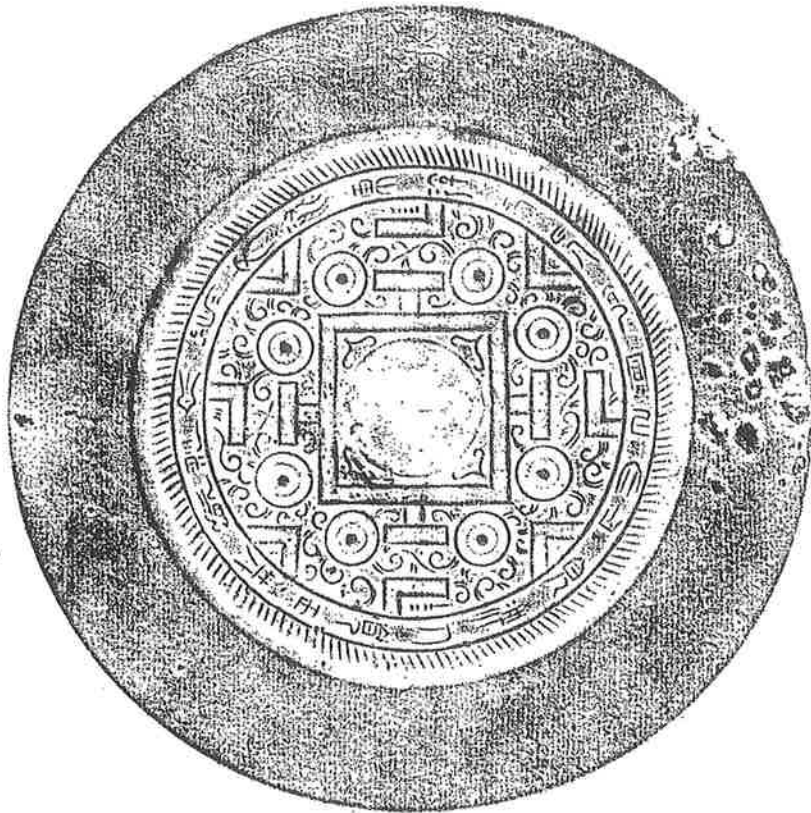
桜馬場遺跡周辺地図



0 5 10 cm

桜馬場遺跡出土流雲文縁方格規矩四神鏡 徑 23.2 cm

唐津湾周辺遺跡調査委員会編，1982『末盧国—佐賀県
唐津市・東松浦郡の考古学的調査研究—』大隈出版



桜馬場遺跡出土素縁方格規矩渦文鏡 径 15.4 cm

素縁方格規矩渦文鏡 完形品である。径は 15.4 cm, 鈕高 1.3 cm, 反り 0.3 cm をはかる。鈕のまわりには四葉座がある。方格中は四神の代りに渦文をもってうめいている。銘文は次の通りである。

| | |
|--------|--------------|
| 上大山見神人 | 大山に上りて神人を見る。 |
| 食玉英飲滢泉 | 玉英を食い、滢泉を飲む。 |
| 駕文龍乗浮雲 | 文龍に駕し、浮雲に乗ず。 |
| 長亨宜 | 長之に宜を享く。 |

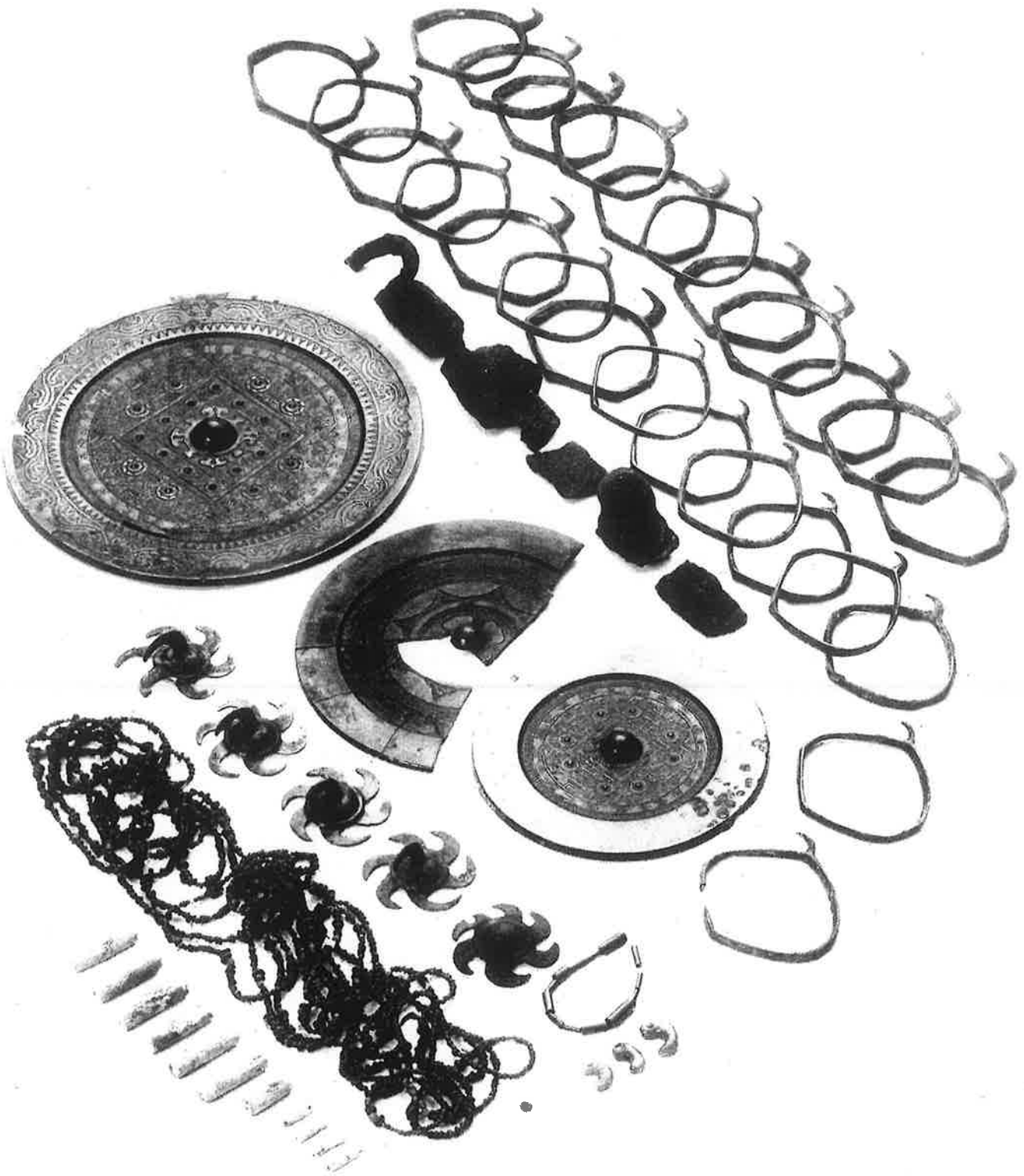
| | | | |
|---|---|---|---|
| 上 | 大 | 山 | 見 |
| 神 | 人 | | |
| 食 | 玉 | 英 | 飲 |
| 滢 | 泉 | | |
| 駕 | 文 | 龍 | 乗 |
| 浮 | 雲 | | |
| 長 | 亨 | 宜 | |
| | | | |
| | | | |

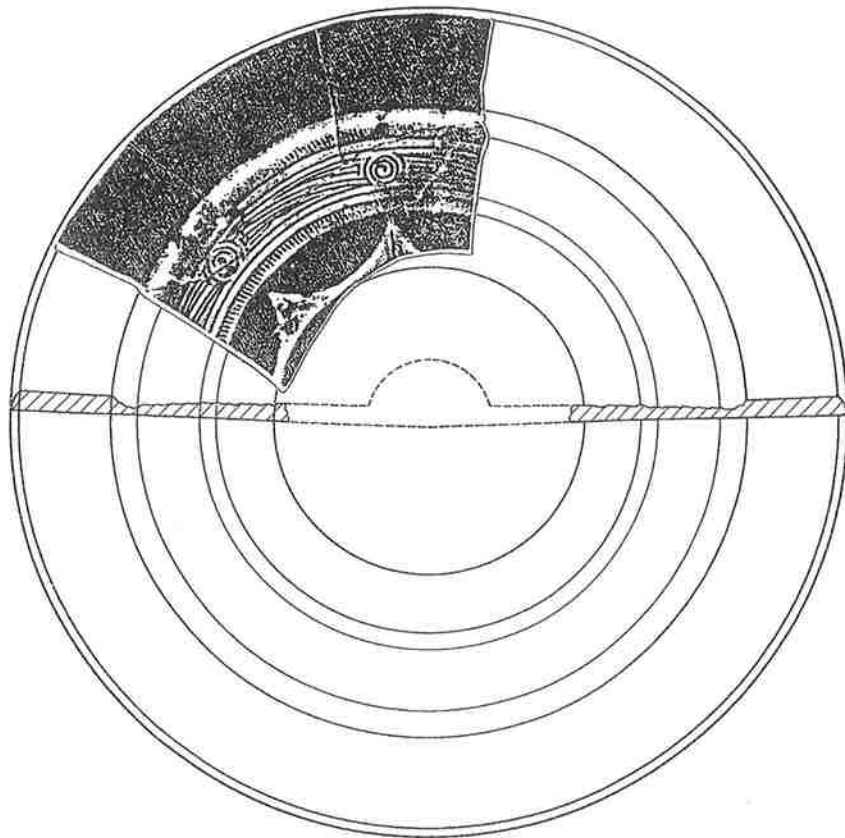
桜馬場遺跡出土方格規矩渦文鏡銘文

唐津市教育委員会, 2014 『末盧国遺跡群—総括報告書—』

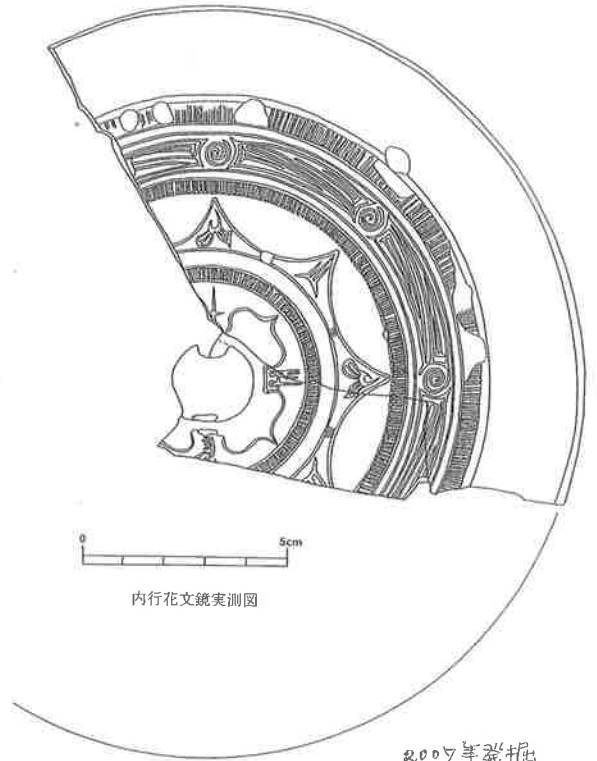
『唐津市文化財調査報告書』第168集

戸塚洋輔, 2021 「弥生後期巴形銅器の展開と東方流入」
『古代学研究』228号





0 5 10 cm
桜馬場遺跡出土内行花文鏡破片拓本 復原径19.2cm



内行花文鏡実測図

2007年発掘

唐津市教育委員会, 2008

『桜馬場遺跡』

『唐津市文化財調査報告書』第147集

鉄刀 厚さ1.1cmをもつ刀である。現在、5.6cmを残すのみである。

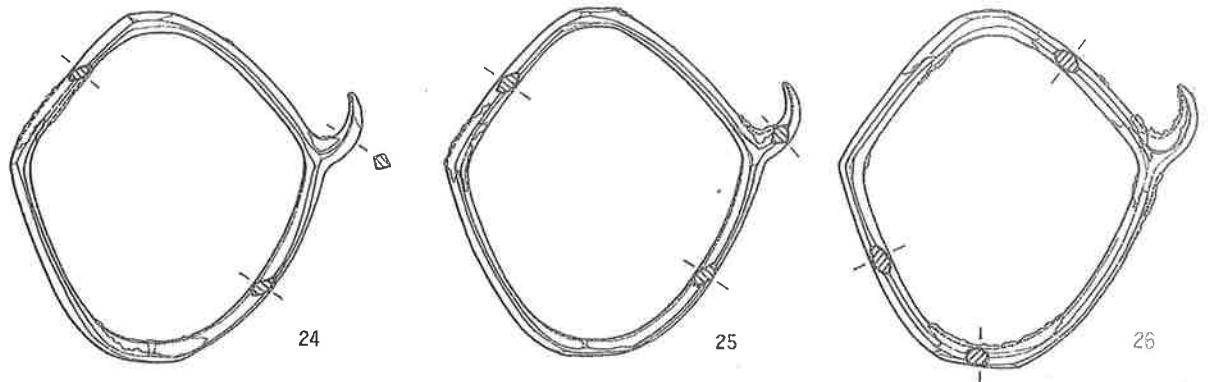
ガラス小玉 もと鉄刀に付着していた。紫色を呈する。径0.7~0.6cmをはかる。

この他、甕棺の周辺より弥生時代の遺物が発見された。

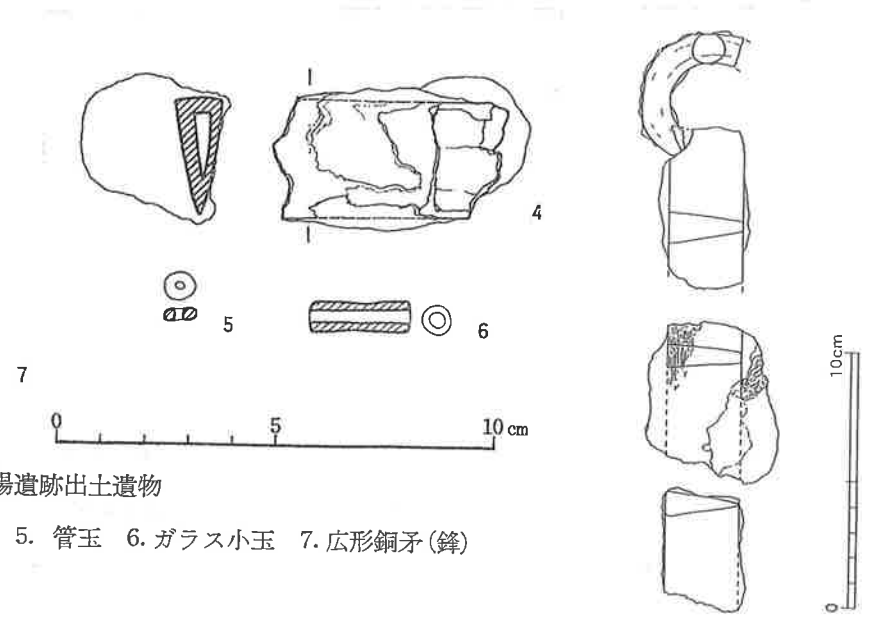
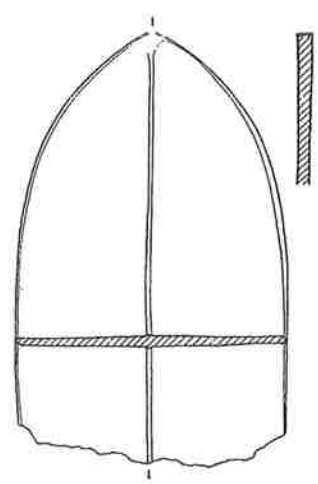
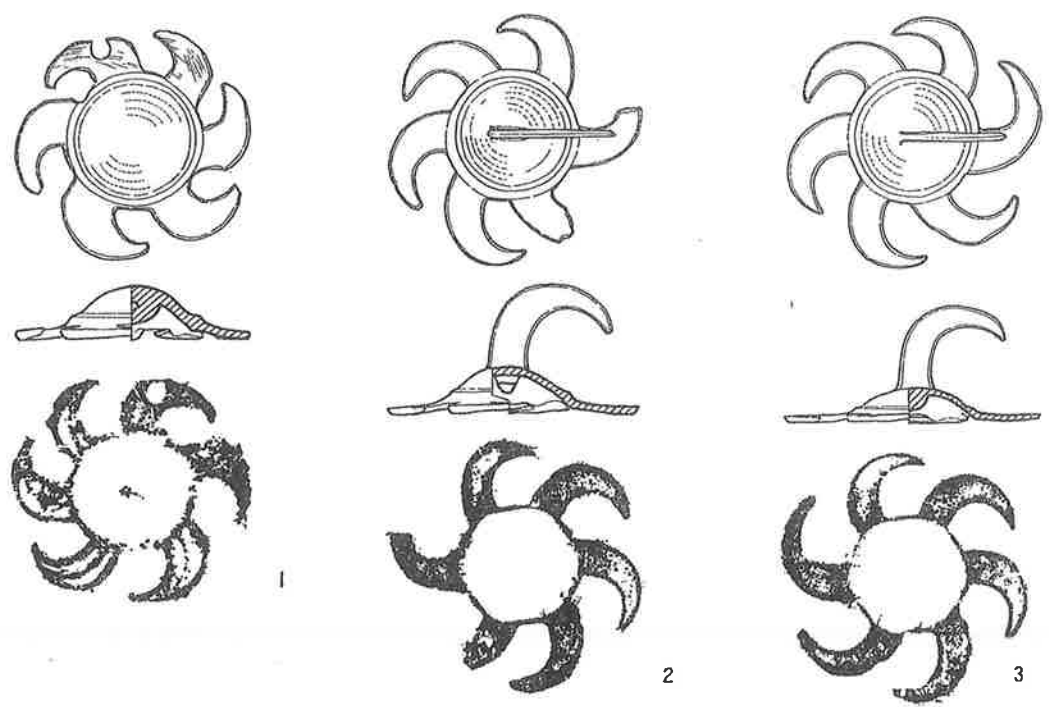
広形銅矛破片 遺物を出土した甕棺より約7m西北の地点で発見された。現長9.7cm, 広形銅矛の鋒の部分である。 鋒の部分の厚さ0.5cmをはかる。下の柄の部分もだが、「らっぱの口」として戦時中に供出してしまったという。

内行花文鏡破片 現在、口辺部の周辺を残すのみであるが、その面径などを推定することが出来る。 面径推定19.2cm, 素縁で、外帯は渦巻きと直線、弧線を組合せる。内区は連弧文(内行花文)帯があり、これでは銘文が読めないが、「長直子孫」などの銘文のある比較的大形のものであったことがわかる。

以上二つは1944年の甕棺内部出土の鏡, 巴形銅器, 銅釧などのものより、時代が下るものである。広形銅矛も、内行花文鏡も甕棺より出土した疑いがあり、弥生後期後半以降のものである。

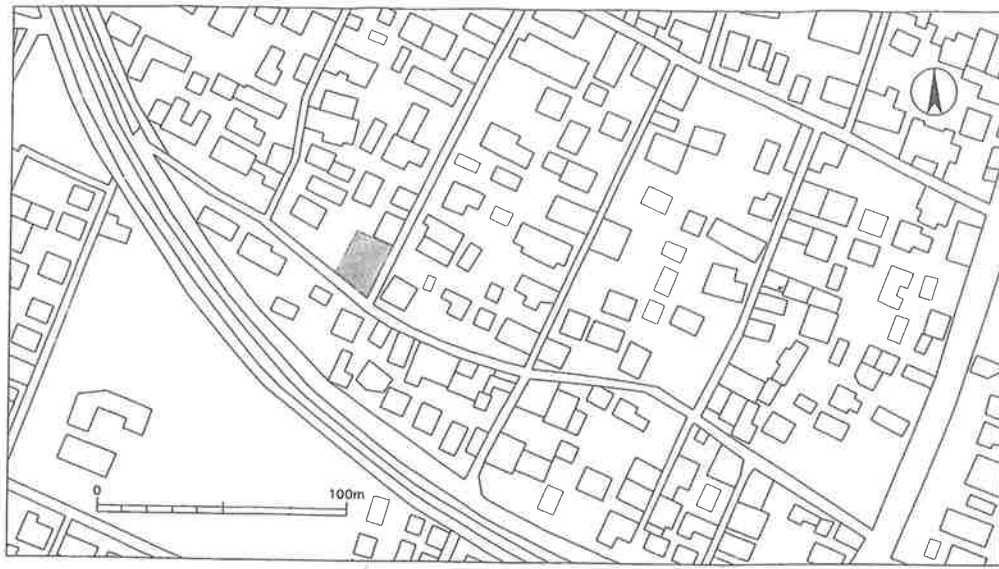


桜馬場遺跡出土有鉤銅劔 (B群例) 実測図



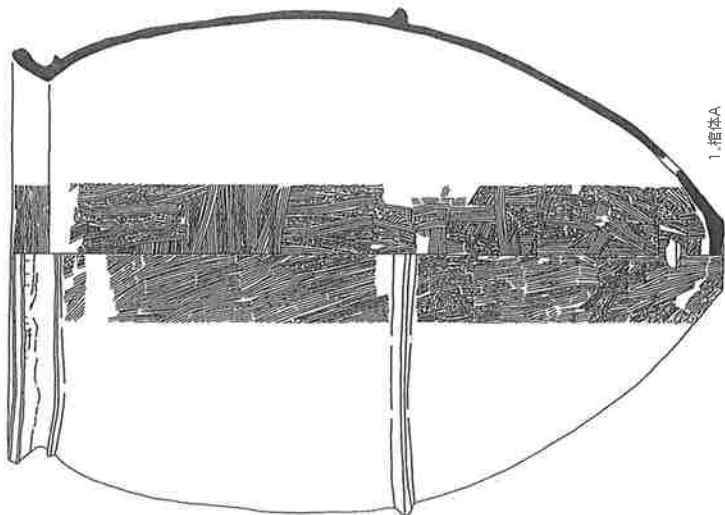
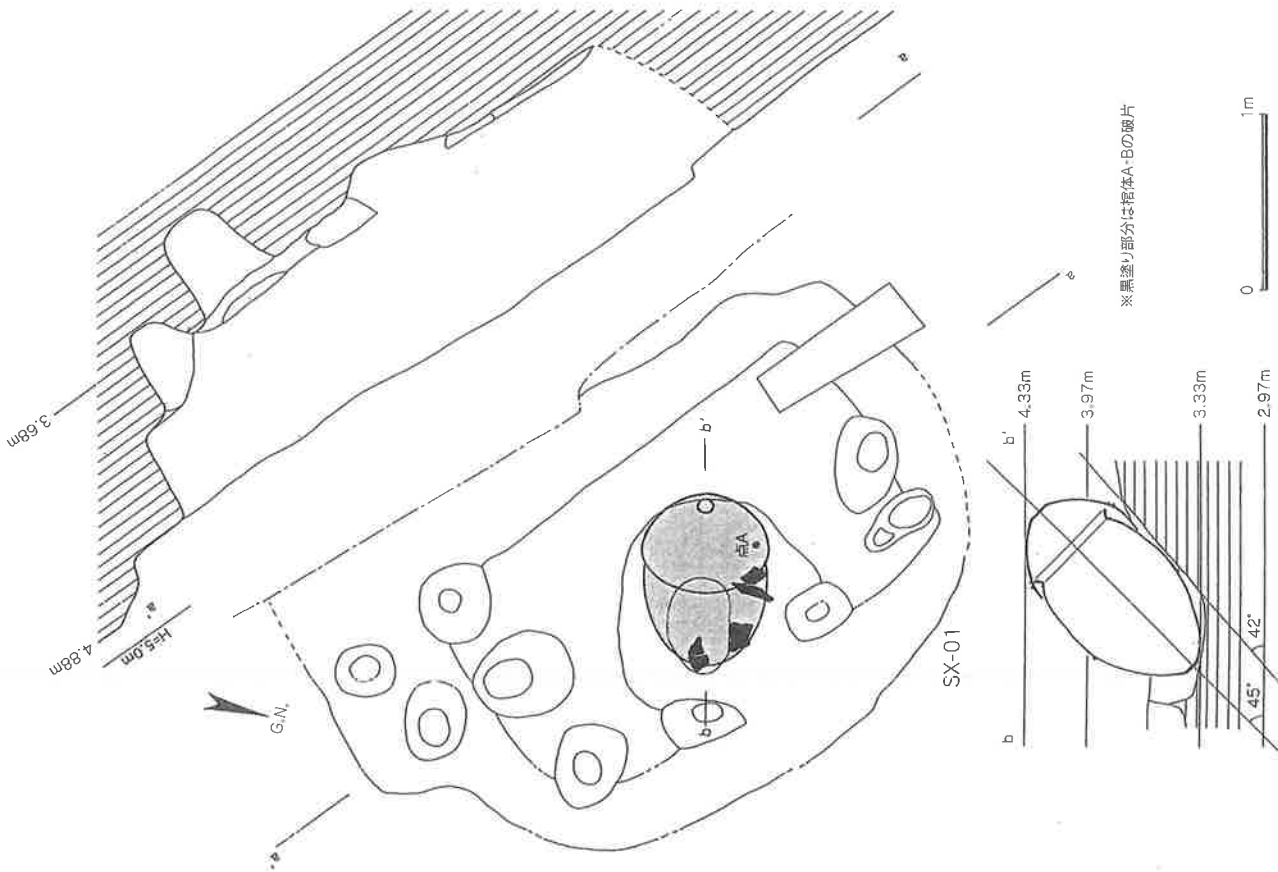
桜馬場遺跡出土遺物

- (1~3. 巴形銅器 4. 鉄刀 5. 管玉 6. ガラス小玉 7. 広形銅矛(鋒)

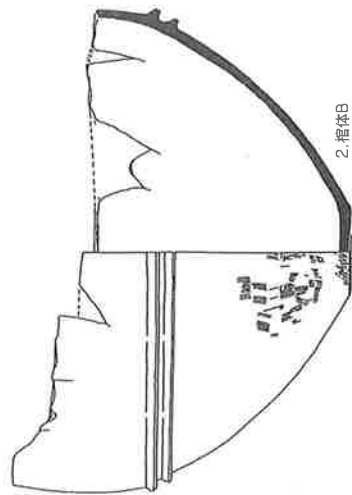


遺跡位置図

2008年報告書



1. 棺体A



2. 棺体B

40 cm

棺体A・B実測図

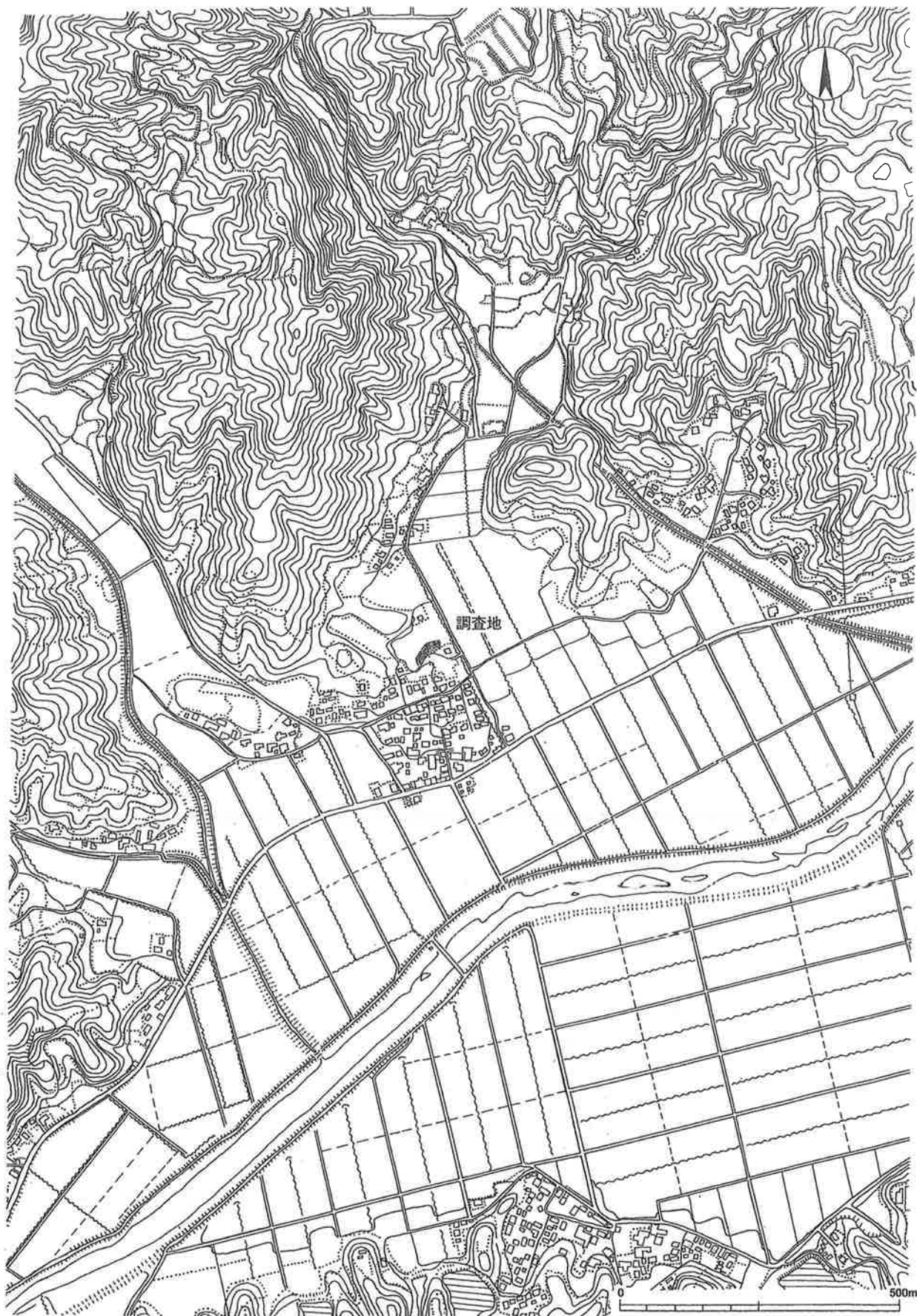
棺体A・B埋置状況復元図

蒲原宏行, 2009「木炭画場「宮器内蔵棺蓋」の相対年代」『地域研究』



周辺の遺跡 (1/25,000)

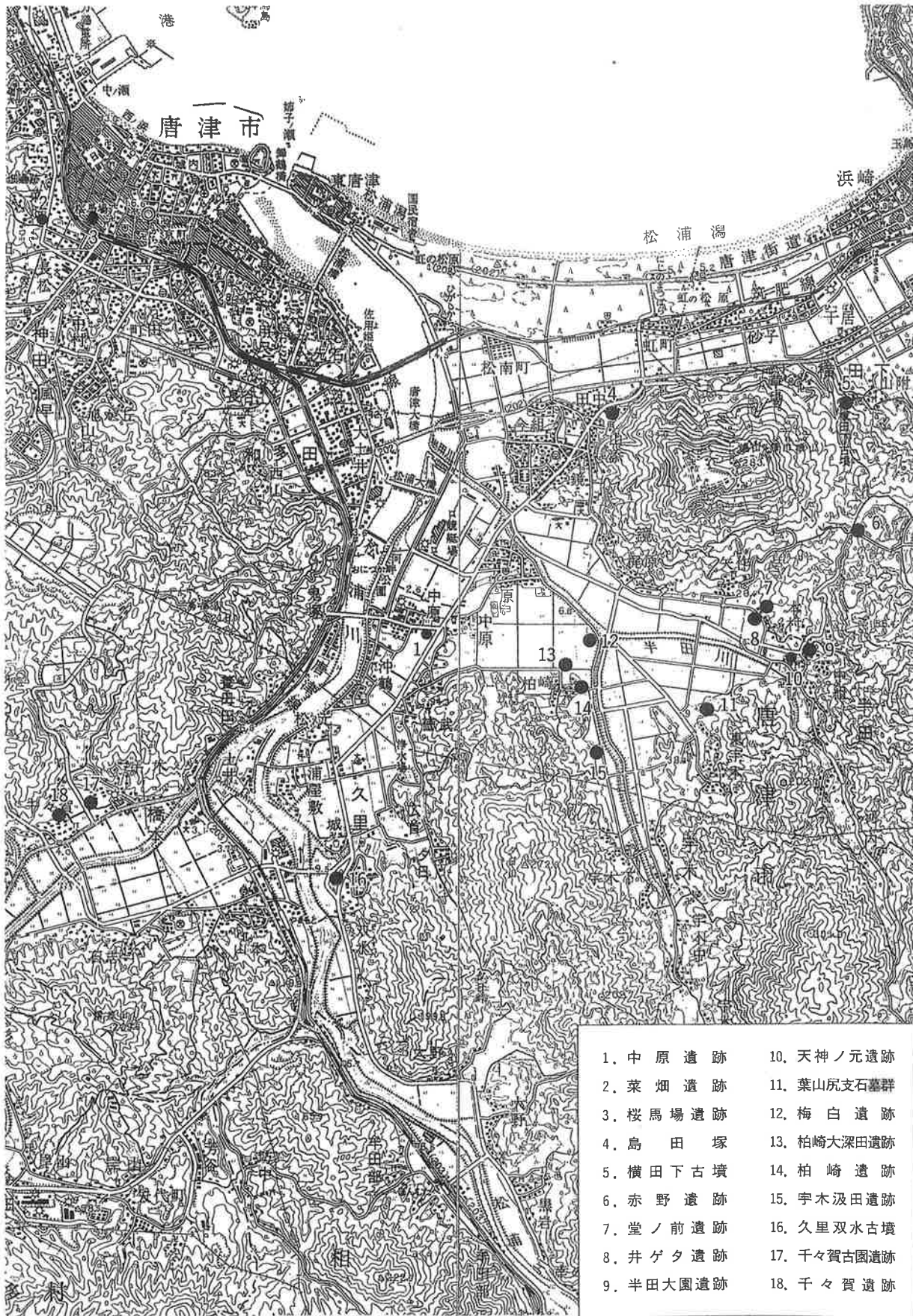
仁田坂 聡, 2001 『千々賀遺跡 - 住宅地造成工事に係る埋蔵文化財調査 -』
『唐津市文化財調査報告書』第102集



工事予定地と周辺の地形



遺物出土状況



周辺の遺跡 (S=1/50,000)

仁田坂 聡, 2006 『中原遺跡(2) — 県道半田鬼塚線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査 —』
『唐津市文化財調査報告書』第129集

調査の経過

第1次日仏合同調査の一環として行われたもので、甕棺墓群のあった第1トレンチ（唐津市大字原字中原，加茂春男氏畑地他），砂丘形成の状況を観察するために設けられた第2トレンチとが調査された。

調査期間 1965年11月11日～11月21日



中原遺跡の位置とトレンチ

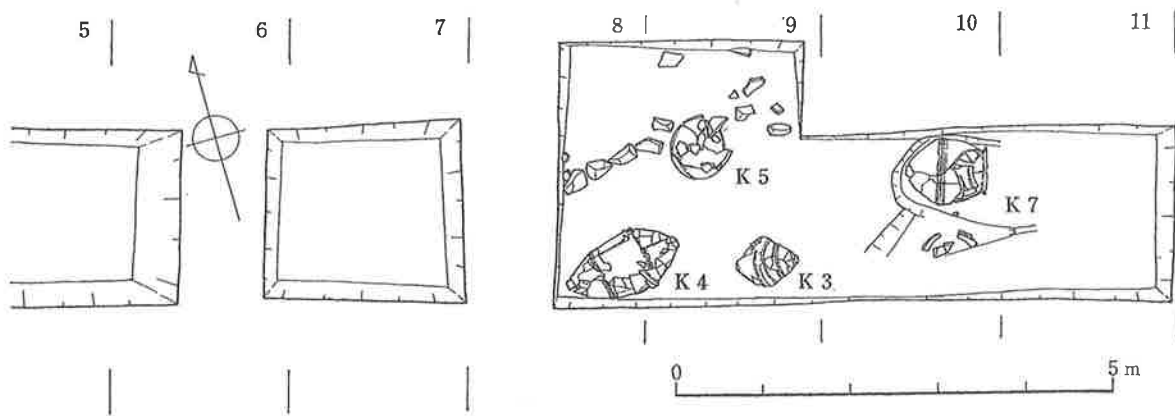
唐津湾周辺遺跡調査委員会，1982『末盧國—佐賀県唐津市・東松浦郡の考古学的調査研究—』六興出版

遺構の概要

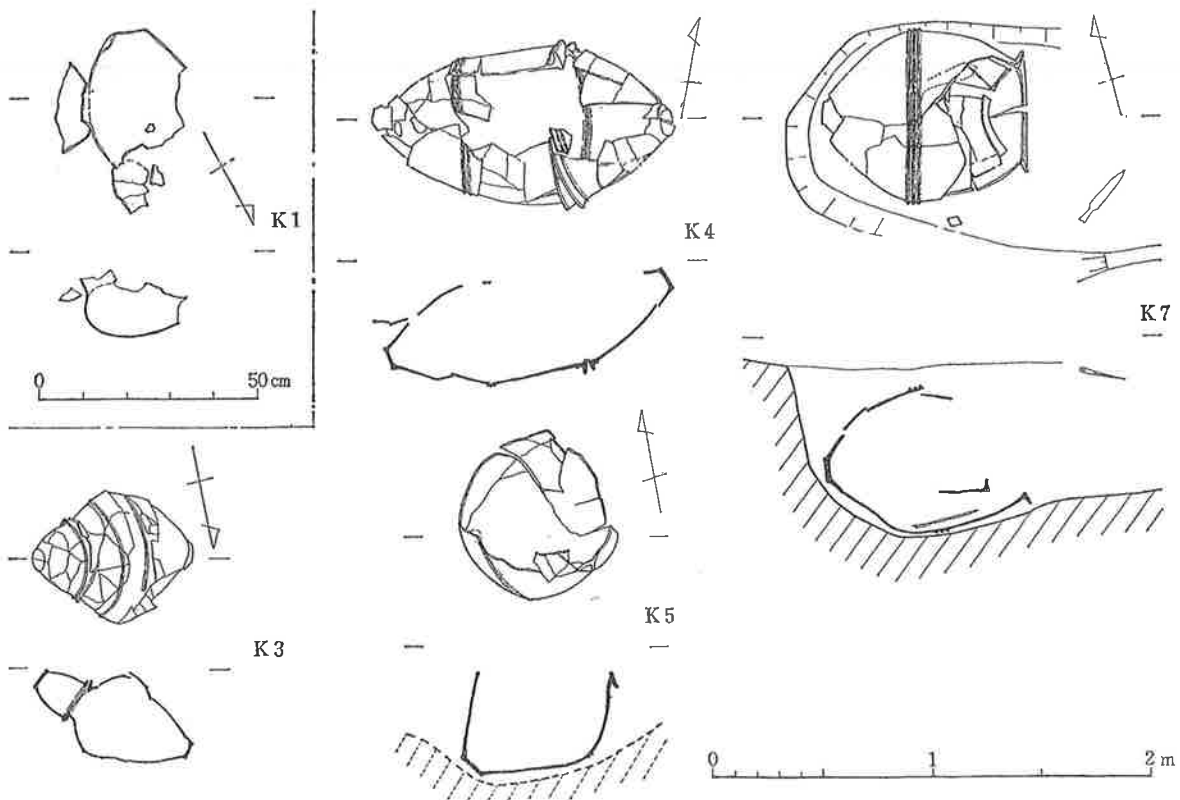
第1トレンチはほぼ東西方向に幅2m、長さ22mで、1~11区が設定された。3区東半、6区東半、8区西半を畦として残し、他は全掘し、8、9区の北側はさらに拡張された。

層位は耕作土の下に包含層（灰褐色粘質砂土層、黒色砂土層、黒褐色砂層）があり、弥生式土器、土師器、須恵器等が出土した。概報で6号甕棺とされた土師器はこの包含層中にあり、調査日誌にも甕棺ではないと明記されているので、欠番としたい。地表下100~120cmにある黄色砂層が遺構面であり、この層から甕棺の墓壙等は掘りこまれているものと考えられる。

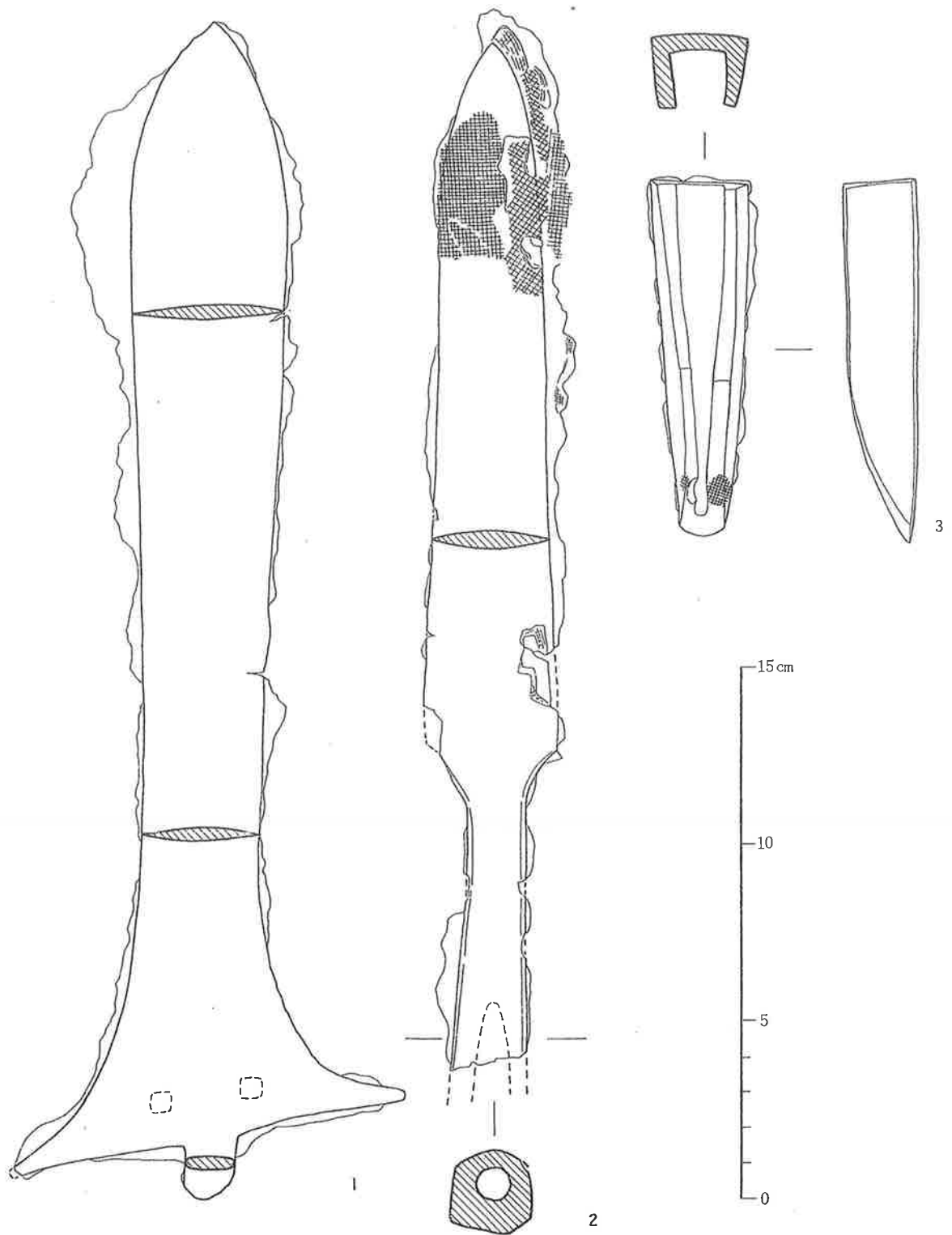
第1トレンチ内からは2・3・4・5・7号の5基の甕棺の他に5号甕棺を切って古墳時代後期につくられた石組遺構が検出された。1号甕棺はこのトレンチの西北にあたる向氏の宅地内より出土したものである。



中原遺跡遺構配置図



中原遺跡甕棺墓実測図



中原遺跡出土鉄器実測図 (1. 7号甕棺内副葬鉄戈 2. 7号甕棺外副葬鉄矛 3. 10区出土鉄器)

末盧国の有力者

中原遺跡に近い久里地区にある古墳時代前期の久里双水前方後円墳は唐津地域最大の前方後円墳です。この隣には双水柴山前方後円墳も造られました。中原遺跡では弥生時代終末～古墳時代初頭のお墓がみつき、破碎された鏡や鉄剣、玉類などが副葬されていました。有力者個人のためのお墓で、溝で方形に区画した墓や前方後円墳が見つかりました。末盧国の中心地は松浦川右岸の久里から中原にかけての地域であることが判ってきました。



中原遺跡の前方後円墳・墳丘墓と土壙墓群 弥生時代終末～古墳時代初頭(1700年前)

1 副葬された三種の神器

弥生時代終末の墳丘墓から鏡、玉、鉄剣が出土しました。鏡は故意に割られており、木棺の両側にまかれていました。鉄剣も棺外に副葬され、折り曲げられたものも見られます。



方格規矩鏡 中原遺跡
弥生時代終末(1800年前)



硬玉製勾玉・碧玉製管玉
中原遺跡 弥生時代終末(1800年前)



鏡・鉄剣の出土状況
中原遺跡 弥生時代終末(1800年前)

2 死者に供えられた土器

墳丘墓の周溝から貼石などとともに多くの高坏が出土しました。高坏には供え物を盛り、死者に捧げたのでしょう。また、前方後円墳の周溝からは壺や甕などが出土しました。

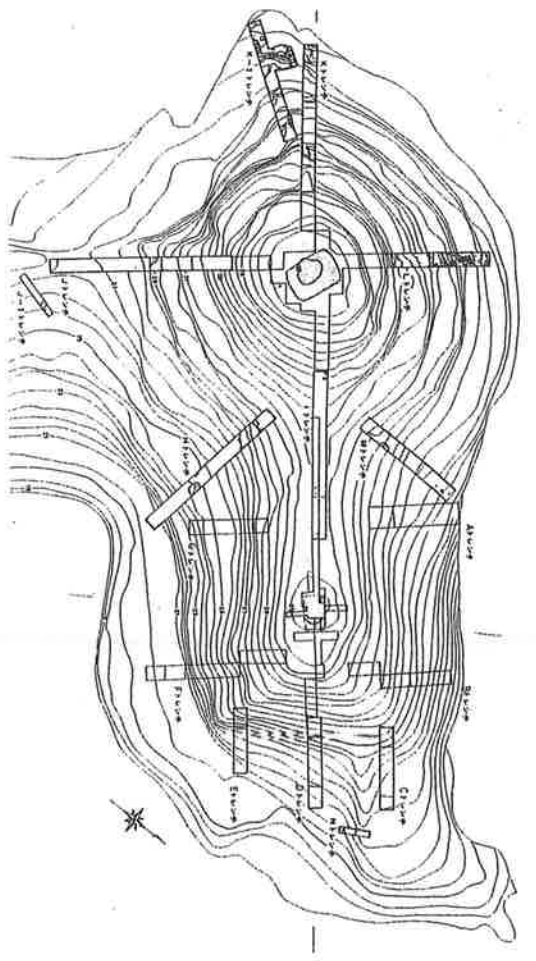
佐賀県立名護屋博物館, 2006 『テーマ展 末盧国物語
— 西九州自動車道関係築地掘調査成果展 —』



墳丘墓周溝の土器出土状況
中原遺跡 弥生時代終末(1800年前)

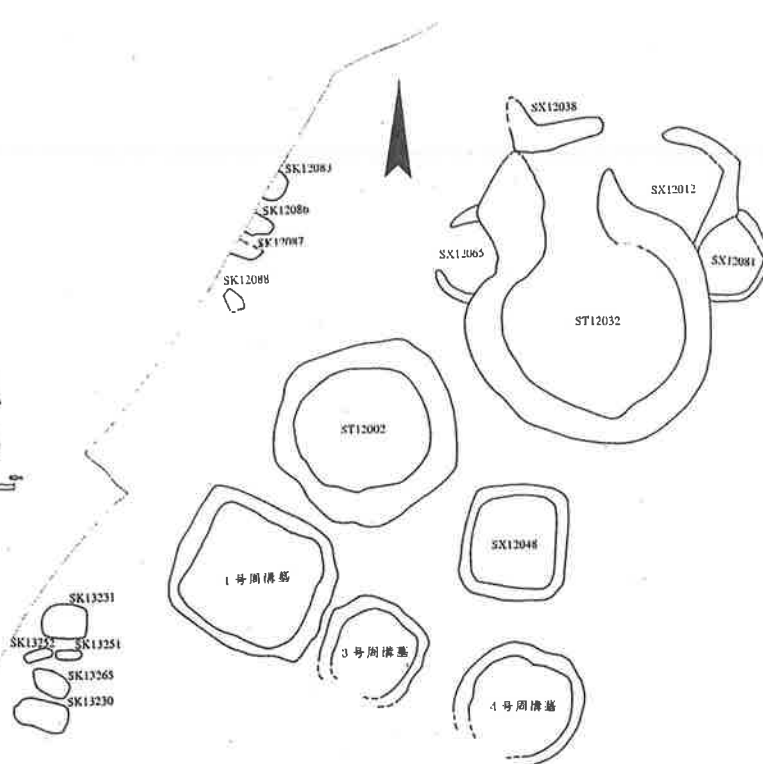
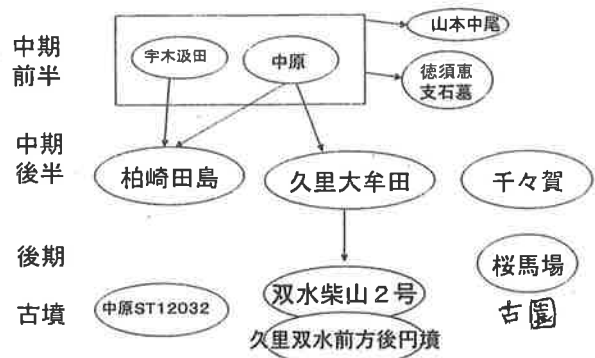


唐津平野の小首長墓変遷模式図



久里双水前方後円墳

唐津平野の小首長墓変遷模式図



中原遺跡古墳・周溝墓・土壘墓遺構配置図

墓域に伴う遺構

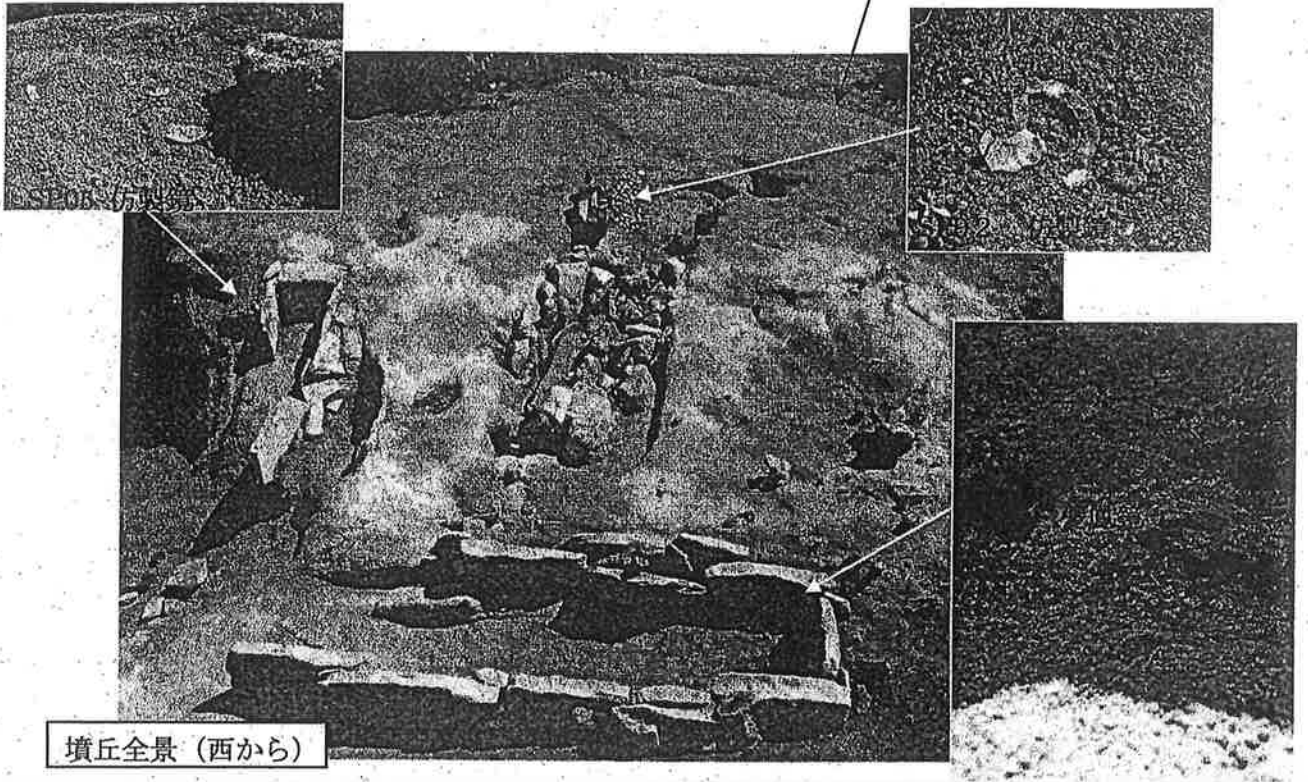
・弥生時代

- SP01 箱式石棺墓 : 夔鳳鏡片 1 (棺内粘土中)・夔鳳鏡片 4 (攪乱土)・刀子 1 (攪乱土)
- SP02 木棺墓 (裏込石を用いた組合箱形木棺) : 仿製鏡 1 (粘土中)・刀子 1・ガラス小玉 4
- SP05 箱式石棺墓 : 仿製鏡 1 (棺内あるいは棺外)
- SK06 祭祀土坑 : 弥生終末土器
- SD17 周溝 : 弥生後期土器、S J 04 壺棺墓 : 弥生終末?

SH8・9・18 竪穴遺構 : 弥生後期後半～終末土器・剥片石器

SK16 祭祀土坑 : 弥生後期後半～終末土器・砥石

SK10・11・20 焼土坑 : 弥生後期土器・種子、(要科学分析)

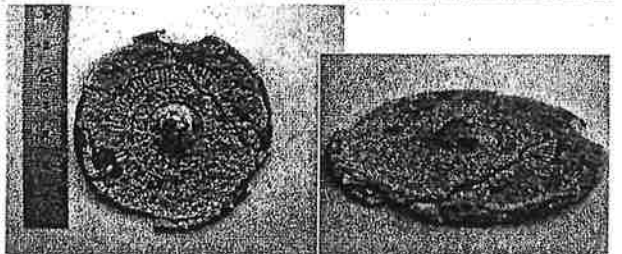
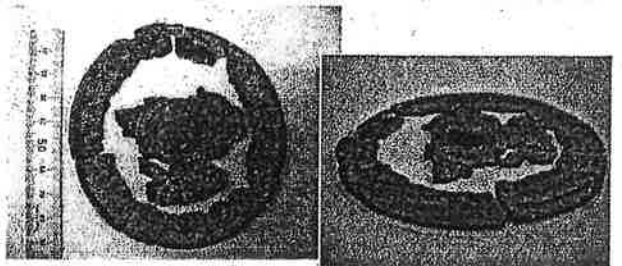
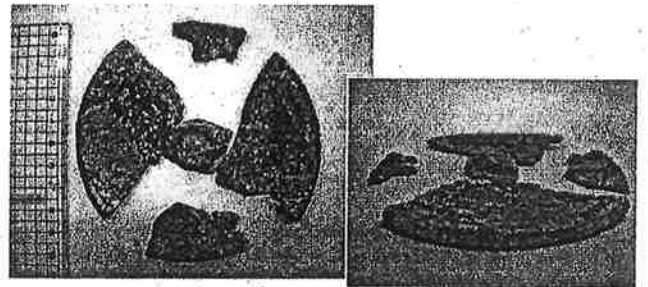


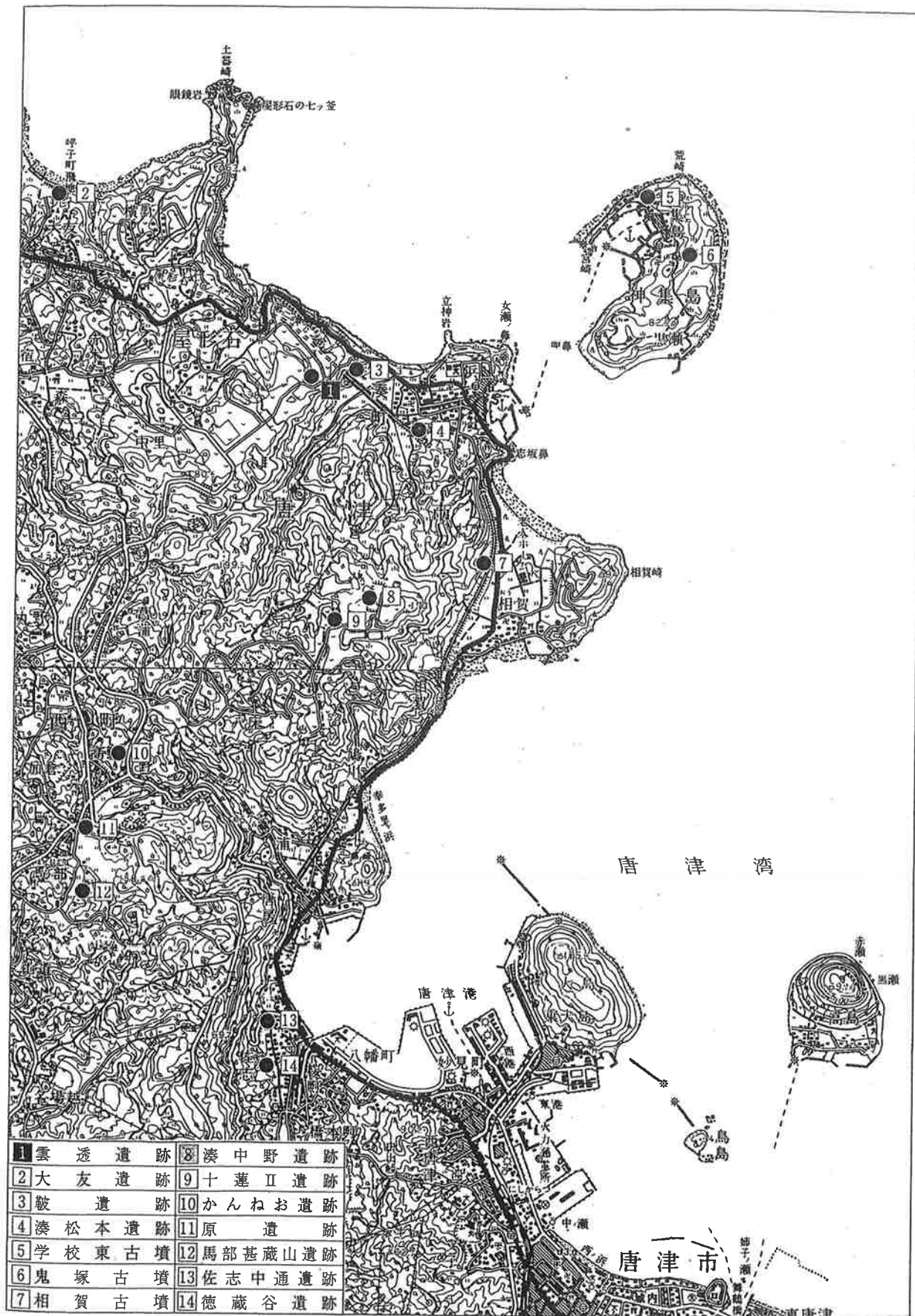
墳墓から出土鏡について

SP01 夔鳳鏡 : 復元径約 11cm。後漢後期から末に中国で製作された鏡。5 片で、鏡背面に赤色顔料が付着。破碎鏡で、各鏡片を棺内の異なった場所に副葬。鏡片の復元位置は未確定。

SP02 仿製鏡 : 径 9.5cm。内区に珠文と乳文があり、外区に櫛歯文を持つ。鈕孔は長方形。鏡背面に赤色顔料が付着。古墳時代の仿製鏡に近い特徴を持つ。

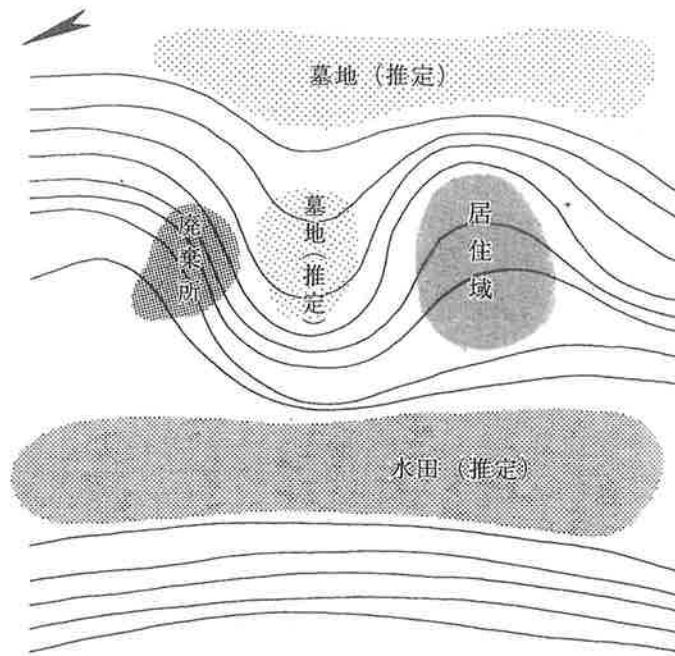
SP05 仿製鏡 : 径 6.5cm。内区に珠文帯、外区に櫛歯文帯を配する。鈕孔は長方形。鏡背面に赤色顔料が付着。古墳時代の仿製鏡に近い特徴を持つ。





雲透遺跡とその周辺の遺跡 (1/50,000)

仁田坂 聡, 1999 『雲透遺跡(Ⅱ)』 『唐津市文化財調査報告書』 第83集



雲透遺跡周辺の集落モデル図

出土哺乳類種名一覧表

| | | |
|-------|---------|--------------------------|
| イヌ科 | タヌキ | Nyctereutes Procyonoides |
| イノシシ科 | ニホンイノシシ | Suscrofa Leucomstax |
| シカ科 | ニホンシカ | Cervus Nippon |
| イルカ科 | イルカ科の一種 | Delphinidae sp. |

出土魚類種名一覧表

魚網 Pisces

硬骨魚綱 Osteichthyes

| | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------------------|
| サバ亜目 | Scombrina | | |
| サバ科 | Scombrina | マグロ | Thunnus thynnus orientalis |
| アジ亜目 | Carangidae | | |
| アジ科 | Carangina | マアジ | Trachurus japonicas |
| スズキ亜目 | Tercina (Percoidei) | | |
| タイ科 | Sparidae | クロダイ | Mylio macrocephalus |
| | | マダイ | Chysohrys major |
| ベラ亜目 | Labridae | | |
| ブダイ科 | Scaridae | ブダイの一種 | Scaridae sp. |
| マフグ亜目 | Tetraodontal | | |
| マフグ科 | Tetraodontidae | マフグの一種 | Tetraodontidae sp. |

仁田坂 聡, 1998 『雲透遺跡 (Ⅱ)』 『唐津市文化財調査報告書』 第 83 集

出土貝類種名一覧表

腹足綱 GASTROPODA

| | | | |
|-----------|---------------|---|--|
| ミミガイ科 | Haliotidae | メカイアワビ トコブシ | Haliotis (Nordotis) sieboldii Sulculus divercicolor aquatilis |
| ツタノハガイ科 | Patellidae | マツバガイ | Cellana nigrolineata |
| ニシキウヅガイ科 | Trochidae | クボガイ クナノコガイ バテイラ オオコシダカガンガラ イシダタミ | Chlorostoma argyrotoma lischke Chlorostoma xanthostigma Omphalius pfeifferi Omphalius pfeifferi carpenteri Monodonta labio |
| リュウテンサザエ科 | Turbinidae | サザエ スガイ | Batillus cornutus Lunella coronata |
| カワニナ科 | Pleuroceridae | カワニナ | Semisulcospira bensoni |
| タマキビガイ科 | Littorinidae | タマキビガイ | Littorina brevicula |
| ウミニナ科 | Potamididae | ウミニナ | Batillaria multiformis |
| タマガイ科 | Naticidae | ツメタガイ | Neverita (Glossulax) didyma |
| アクキガイ科 | Muricidae | アカニシ レイシ イボニシ | Rapana thomasiana. Thais bronni Thais clavigera |
| テングニシ科 | Busyconidae | テングニシ | Hemifusus ternatanus |
| ムカデガイ科 | Vermetidae | オオヘビガイ | Serpulorbis (cladopna) imbricatus |

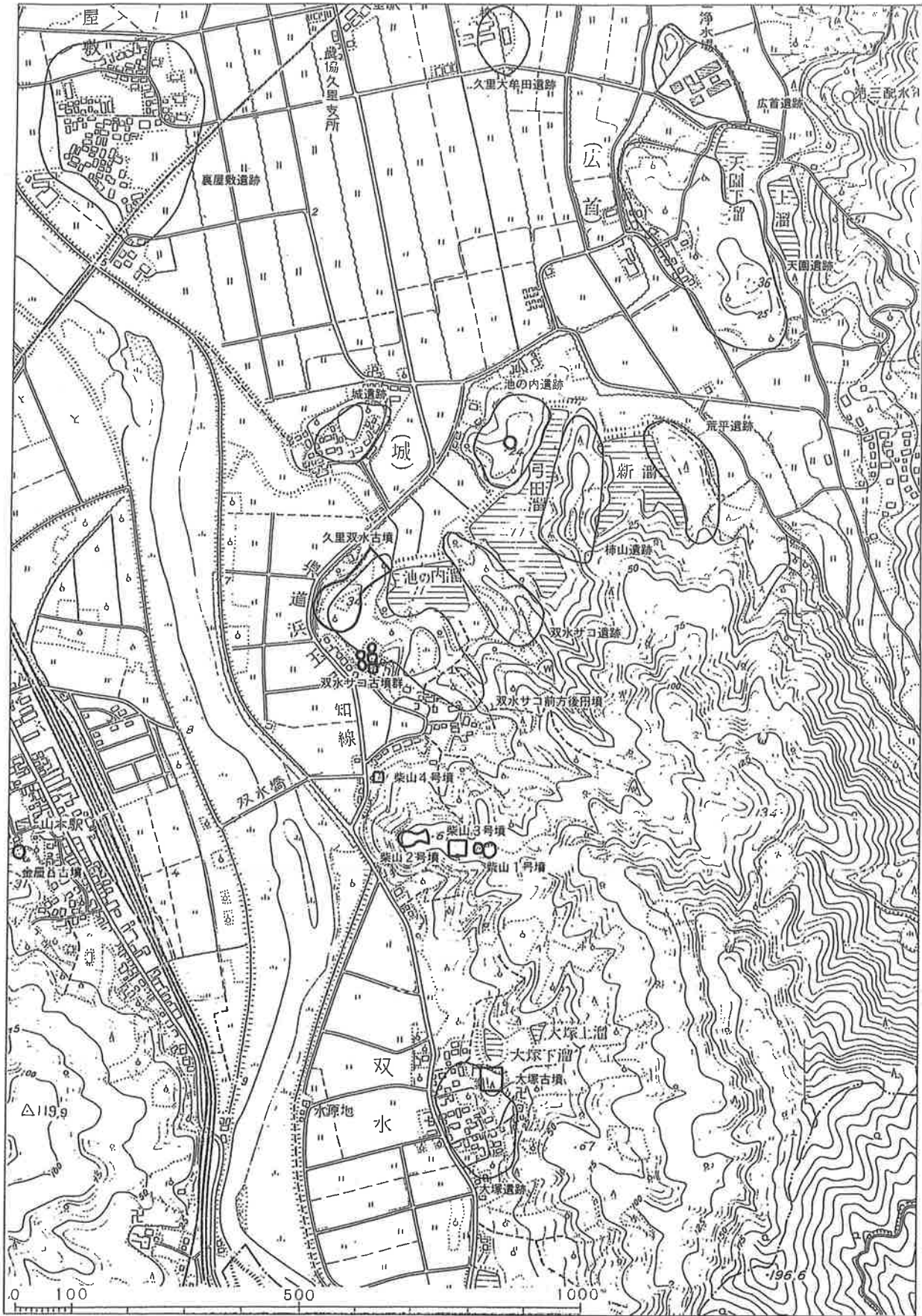
斧足綱 PELECYTODAE

| | | | |
|---------|--------------|----------------------------------|--|
| フネガイ科 | Arcidae | アカガイ | Scapharaca broughtonii |
| イガイ科 | Mytilidae | ムラサキインコガイ イガイ | Septifer (Modiolusia) elongatus Mytilus coruscus |
| ウグイスガイ科 | Pteriidae | アコヤガイ | Pinctada fucata |
| イタヤガイ科 | Pectinidea | シナイタヤ | Pecten excavatus. |
| イタボガキ科 | Ostreidae | マガキ | Crassostreagigas |
| マルスダレ科 | Veneridae | アサリ ハマグリ カガミガイ ウチムラサキガイ | Tapes (Amygdala) philippinarum Meretrix lusoriagigas Dositrochus bilunulatus Soxidomus purpuratus |
| タマキガイ科 | Glycymeridae | ベンケイガイ | Glycymeris albolineata |

その他

多板綱 POLYPLACOPHORA

| | | | |
|------------|------------|-------|---------------------|
| クサズリヒザラガイ科 | Chitonidae | ヒザラガイ | Liolophura japonica |
|------------|------------|-------|---------------------|



久里双水古墳周辺の遺跡 (1/10,000)

唐津市教育委員会, 2009 『久里双水古墳』 『唐津市文化財調査報告書』 第95集

久里双水古墳の調査

古墳の発見

久里双水古墳は唐津市双水字サコ2776-1番地にあり昭和56年4月に労働者住宅生活協同組合の宅地造成事業に伴い前方後円墳であることが確認されました。

大型の前方後円墳であることから造成工事の範囲やこれに続く県道区域からも除外して保存することになりました。昭和56年に実施した測量調査で、古墳の全長98m、後円径56.2m~62m、同高10.5m、前方部幅36m、同長41.5m、同高8.5mであり、時期を一貫山銚子塚との類似から4世紀末~5世紀と考えました。

昭和63年1月に市の史跡に指定し、平成元年3月に公有化を実現しました。同年8月に地下レーダー探査による遺構保存状況の調査を行い、平成3年度から3年間、古墳前方部、古墳後円部、古墳墳頂部の範囲確認調査を実施しました。

この確認調査によって、久里双水古墳が全長108.5m、後円部径62.2m、前方部幅42.8mで、墳丘築成は後円部と前方部下半部が地山削りだして、前方部上半部が盛土の自然地形を利用した特異なものであることが分かりました。しかも年代が出土した土器から3世紀末~4世紀前半にまでさかのぼる可能性もできました。

古墳主体部の調査

平成5年度の確認調査によって、後円部墳頂に主軸に直交するように長軸6.22m、短軸4.50m~4.13mの長方形を呈する墓壇堀り方を検出しました。墓壇内に外側の長さ4.34m、幅2.78mのやや隅丸長方形の粘土で覆われた石室が確認されました。しかも堀り方の裏込め控え石が見られず土で充填すること、墓壇のコーナーに足掛かり状の小さい段を作り出すこと、堀り方の東南側に古式土師器の供献土器群も確認しました。

しかし、石室上部に平安時代後期の経塚が遺存していることも分かりました。経塚は外部構造が方形二重の列石で内部に滑石製外筒にいれた銅製経筒を持つという11世紀末の九州でも最古級の完全なものであることが分かり、保存も検討することとなりました。

平成6年の調査は、遺存状態の確認のためのファイバースコープによる検討と経塚の移設から始めました。

経塚の移設を終了した後の墓壇内確認によって石室の全体が厚く粘土で被覆されてはいたものの、経塚築

造の際に粘土被覆面が一部剥ぎ取られ、石室の天井石上面に経塚底石が据えられていました。

石室の粘土被覆を剥ぎ、長さ1.80m~1.94m、幅1.09m~1.17m、厚さ0.04m~0.15mの砂岩製の天井石3枚が確認され、これを開口した結果、内径長さ2.50m~2.61m幅0.79m~0.98m、高さ0.95m~1.03mの堅穴式石室が検出され、床面に長さ2.05m、幅0.61mの断面がU字形の粘土床が見つかりました。しかもこの粘土床の両端が反り上がったような形状をしていて、中央部に切り込みがある極めて特異なものであることも分かりました。石室は砂岩や玄武岩の板石を粘土と交互に積み上げたもので、構築もレンガ積や重箱積が併用され、持ち送りの弱い形態でした。壁面や天井石の裏には、一面に赤色顔料が塗られ、粘土被覆面の中にも、顔料の散布面が認められ、密封作業の工程を検討することもできるものです。粘土床の在り方から、従来考えられた木棺が割竹形木棺ではなく、舟形木棺である可能性がでてきました。そうなると前方後円墳では類似のない初めての事例として注目に値することになります。

副葬品

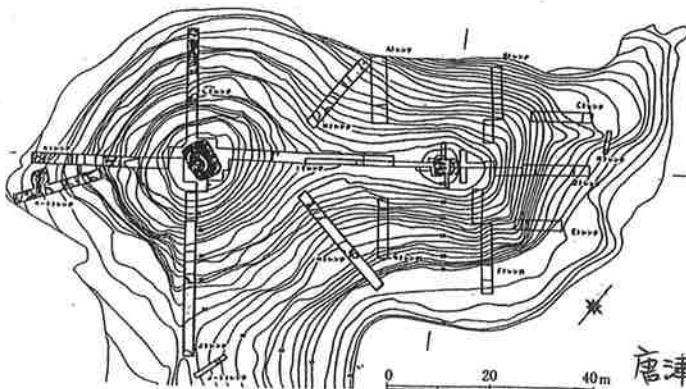
石室内から鏡1、管玉2と石室上端の天井石との間から刀子1が見つかりました。

鏡は完全な形の中国の後漢鏡「盤龍鏡」で、粘土床の埋葬頭位側にあたる部分からが出土しました。径12.1cm、縁の厚さ1.2cmで龍と虎が向い合う文様が描かれています。鈕がやや小さく、縁は鋸歯文様が2列並ぶ平縁になっていて、乳(珠文)と呼ばれる小さい突起や「子」の銘も認められるものでした。

盤龍鏡は中国の後漢の時代(1世紀~3世紀)に作られたもので、日本では古墳時代前期~中期の墳墓から全国で71例程見つかっています。

久里双水古墳の鏡とまったく同じ文様は他になく、近似したものが楽浪郡のあった朝鮮半島や中国の古墳から出土しています。

管玉2個は碧玉製で長さ7mm~9mmの小型で弥生時代によく見られる形式です。出土は粘土床の中央部で被葬者の腰から胸にかけての場所と考えられる位置になります。刀子は長さ、7.0cm、幅1.3cmの小型のもので発見位置から葬送にかかわる祭祀にもちいられたものと考えられます。

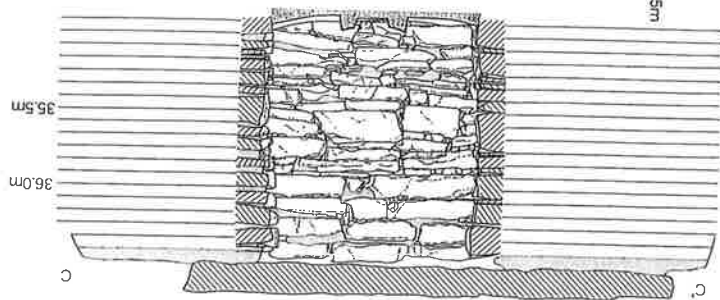
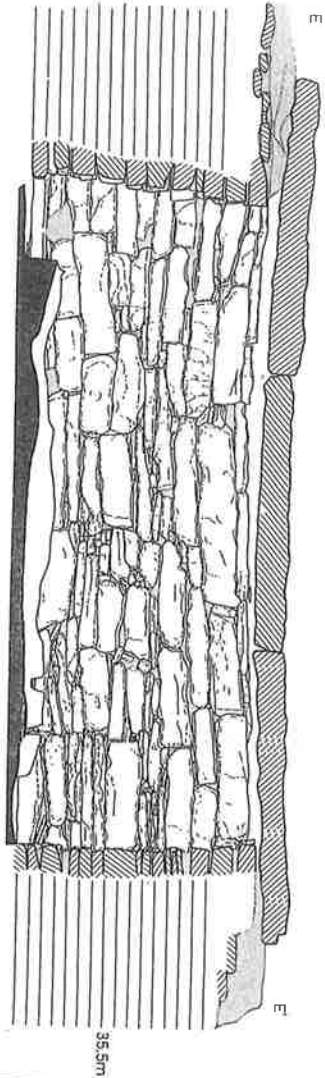
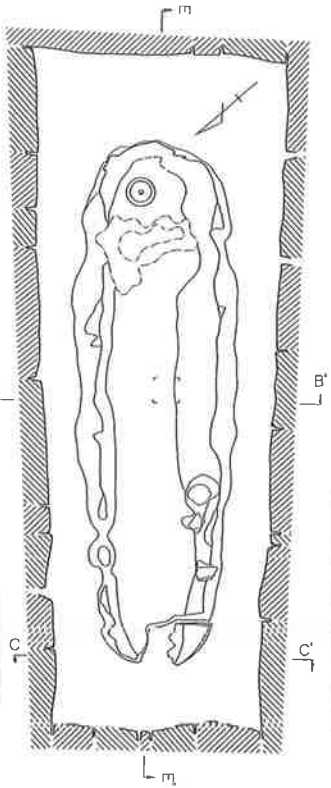
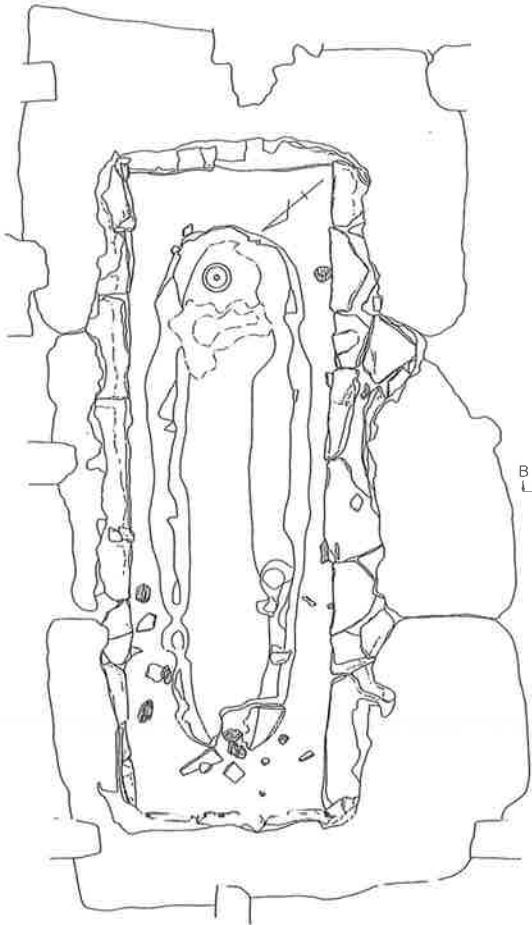
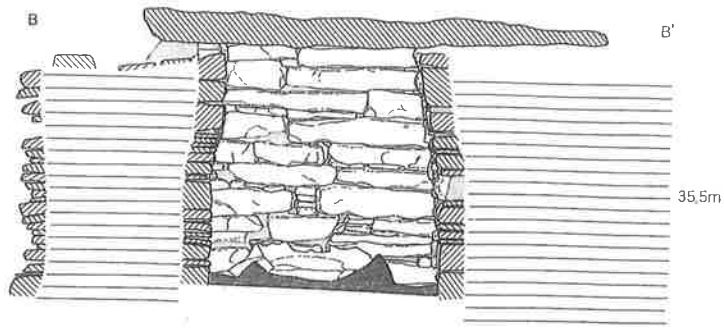
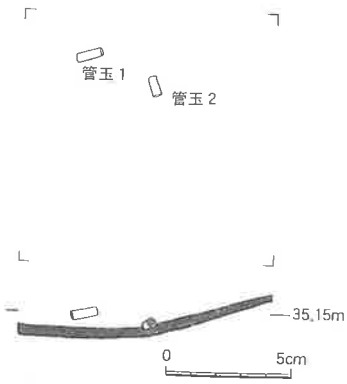


久里双水古墳全景トレンチ設定図



平縁盤龍鏡

唐津市末盛館, 1994『末盛館開館四周年記念特別展
「古墳の秘宝」速報展』久里双水前方後円墳出土品



石室壁体・石室内粘土床実測図

唐津市教育委員会, 2009 『久里双水古墳』 『唐津市文化財調査報告書』 第95集